

平成22年度

事業報告書



学校法人 高田学苑

Takada Gakuen

高田短期大学、高田高等学校、高田中学校

平成22年4月1日～平成23年3月31日まで

1. 法人の概要

建学の精神2

教育方針

- (1) 設置する学校、定員及び現員
- (2) 役員氏名3
- (3) 教職員数及び組織構成図3～4
- (4) 校舎敷地及び建物等5
- (5) 学生・生徒志願者数推移表6
- (6) 学生・生徒在籍者数推移表7

2. 事業実績の概要

- －法人－8～11
- (1) 教職員研修
- (2) 教職員の福利厚生事業の充実
- (3) 高田学苑表彰
- (4) 安全衛生の取組強化
- (5) 大規模改修工事入札結果報告
- (6) 高田学苑理事会、監事会の開催報告及び監査法人監査報告

3. 教育研究活動の実績

- －高田短期大学－12～24
- 〈短大全体〉
- (1) 「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム
- (2) オープンキャンパス実施結果
- (3) 進学相談会の実施結果
- (4) みえアカデミックセミナー2010～心豊かな人生へのアクセス～
- (5) 大学サロンみえ
- (6) 「馬とふれあう親子ひろばin高田パーク2010」
-
- 〈子ども学科〉
- (1) 高田短期大学保育セミナー(コミュニティカレッジ)
- (2) 平成22年度総合的な地域活性化事業
-
- 〈人間介護福祉学科〉
- (1) 人間介護福祉学科地域連携推進事業
- (2) 福祉・介護サービスチャレンジ教室
- (3) 介護技術講習会
- (4) 学科プロジェクト「高齢化に伴う津市河芸・一身田地区住民による見守り体制の構築」
- (5) 学科プロジェクト「高齢者福祉施設との連携・協働によるレクリエーション行事の企画運営」
-
- 〈オフィス情報学科〉
- (1) 学科プロジェクト「オフィス人材育成研究の場おこしプロジェクト」
- (2) 学科プロジェクト「働く女性応援プロジェクト」

- (3) 学科プロジェクト「一身田寺内町活性化プロジェクト」
- (4) 学科プロジェクト「学生と地域情報ボランティアによるシニア・子どもパソコン教室」

-
- 〈図書館・仏教文化研究センター〉
- (1) 高田短期大学公開講座
- (2) 仏教文化研究センター公開講座
- (3) 仏教文化研究センター仏教入門講座
- (4) 仏典童話人形劇サークル(縁起人)の活動
- (5) 学内仏教行事の実地
- (6) 研究会の開催

-
- 〈育児文化研究センター〉
- (1) 子育て応援隊について
- (2) センターだより「IKUBUN NEWS12号」発行
- (3) 地域子育て支援事業「子育て・子育て支援 元気っ津まつり」について

-
- 〈外国人留学生支援センター〉
- 〈ボランティア活動支援室〉
- 〈施設設備等の整備事業〉

- －高田中学校・高田高等学校－24～33
- (1) キャリア教育推進事業
- (2) 部活動の推進事業
- (3) 危機管理教育の取り組み
- (4) 教職員の資質向上事業
- (5) きめ細やかな学習指導の推進
- (6) 命の大切さを考える教育の推進事業
- (7) 国際交流事業
- (8) 自己点検・評価等推進事業
- (9) 数理コースの授業概要
- (10) 教職員海外研修事業
- (11) 人権教育研修の推進
- (12) 生徒募集の推進
- (13) 学校安全・保健計画の推進
- 〈施設設備整備実績〉

4. 財務の概要

- (1) 資金収支計算書の概要34～36
- (2) 消費収支計算書の概要37
- (3) 貸借対照表の概要38. 39
- (4) 財務比率推移表40
- (5) 財産目録41

1 法人の概要

建学の精神

本学苑は仏教精神を基として宗教的情操を培い、人間性豊かな社会人を育成することを建学の精神としている。

教育方針

<短期大学>

建学の精神をふまえ、単に専門知識・技能の教授のみならず、「自分の立場や他人の立場を理解し、人や自然と優しく交わることのできる、おおらかで柔軟な思いやりのある心」を培う教育をめざしている。

<中・高等学校>

真宗高田派の宗門立学校として、言行忠信、表裏相応を校訓として、仏教教育による人間味の豊かさを深め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会に貢献できる人材の養成をめざした教育を行っている。また、中学校・高等学校一貫六年制コースを設置し、高い水準の学力と知的な生徒を育成している。

(1) 設置する学校、定員及び現員

- ◆ 高田短期大学 三重県津市一身田豊野195
子ども学科
人間介護福祉学科
オフィス情報学科
- ◆ 高田高等学校 三重県津市一身田町2843
- ◆ 高田中学校 三重県津市一身田町2843

○高田短期大学

(平成22年5月1日現在)

学科名	入学定員	収容定員	1年生	2年生	合計
子ども学科	150名	300名	154名	155名	309名
人間介護福祉学科	40名	80名	30名	19名	49名
オフィス情報学科	60名	120名	72名	64名	136名
合計	250名	500名	256名	238名	494名

○高田高等学校

入学定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
730名	2190名	661名	572名	562名	1795名

(募集定員 560名) (3ヶ年の募集定員計 1710名)

○高田中学校

入学定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
200名	600名	199名	221名	193名	613名

(2) 役員氏名

<理事 定数10名 実数9名>

(平成22年9月30日現在)

区分	氏名	現職
第1号 宗務総長	青木 眞暁	真宗高田派 宗務総長
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	高臣 文祥 栗原 廣海 高臣 文祥	学校法人高田学苑 理事長(学苑長) 高田短期大学 学長 兼務
第3号 評議員	伊藤 友治 鷲尾 弘文 倉田 謙文 佐脇 功 望月 演	(有)平治煎餅 代表取締役、(株)津銘菓 代表取締役 (宗)真宗高田派 正因寺住職 (株)津ドライブインスクール 取締役会長 高田学苑樹心同窓会 会長 三重県私学協会 会長

<監事 定数2名 実数2名>

区分	氏名	現職
監事	下津 和文	(株)下津醤油 代表取締役
監事	中山 照夫	税理士

<評議員 定数21~25名 実数22名>

区分	氏名	現職
第1号 宗務総長	青木 眞暁	真宗高田派 宗務総長
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	高臣 文祥 栗原 廣海 高臣 文祥	学校法人高田学苑 理事長(学苑長) 高田短期大学 学長 兼務
第3号 法人職員	三宅 啓子 千草 篤磨 井ノ口良雄 長谷川 博	高田短期大学 子ども学科長 高田短期大学 人間介護福祉学科長 高田中・高等学校 副校長 高田中・高等学校 教頭
第4号 功労者	小妻 道生 望月 演 倉田 謙文	高田短期大学 名誉教授 三重県私学協会 会長 (株)津ドライブインスクール 取締役会長
第5号 卒業者	鷲尾 弘文 佐脇 功 前畑みち代 落合 壽	(宗)真宗高田派 正因寺住職 高田学苑樹心同窓会 会長 高田短期大学 非常勤講師 元津市議会議員
第6号 宗議会議長	柏原 良信	(宗)真宗高田派宗議会 議長
第7号 本山総務	藤山 眞哉 藤森 邦夫	(宗)真宗高田派総務 (宗)真宗高田派総務
第8号 学識経験者	伊藤 友治 坪井 俊輔 日野 昭 永井 玲子	(有)平治煎餅 代表取締役、(株)津銘菓 代表取締役 弁護士 坪井法律事務所 (財)真宗高田派十萬人講財団 理事長 津家庭裁判所 調停委員

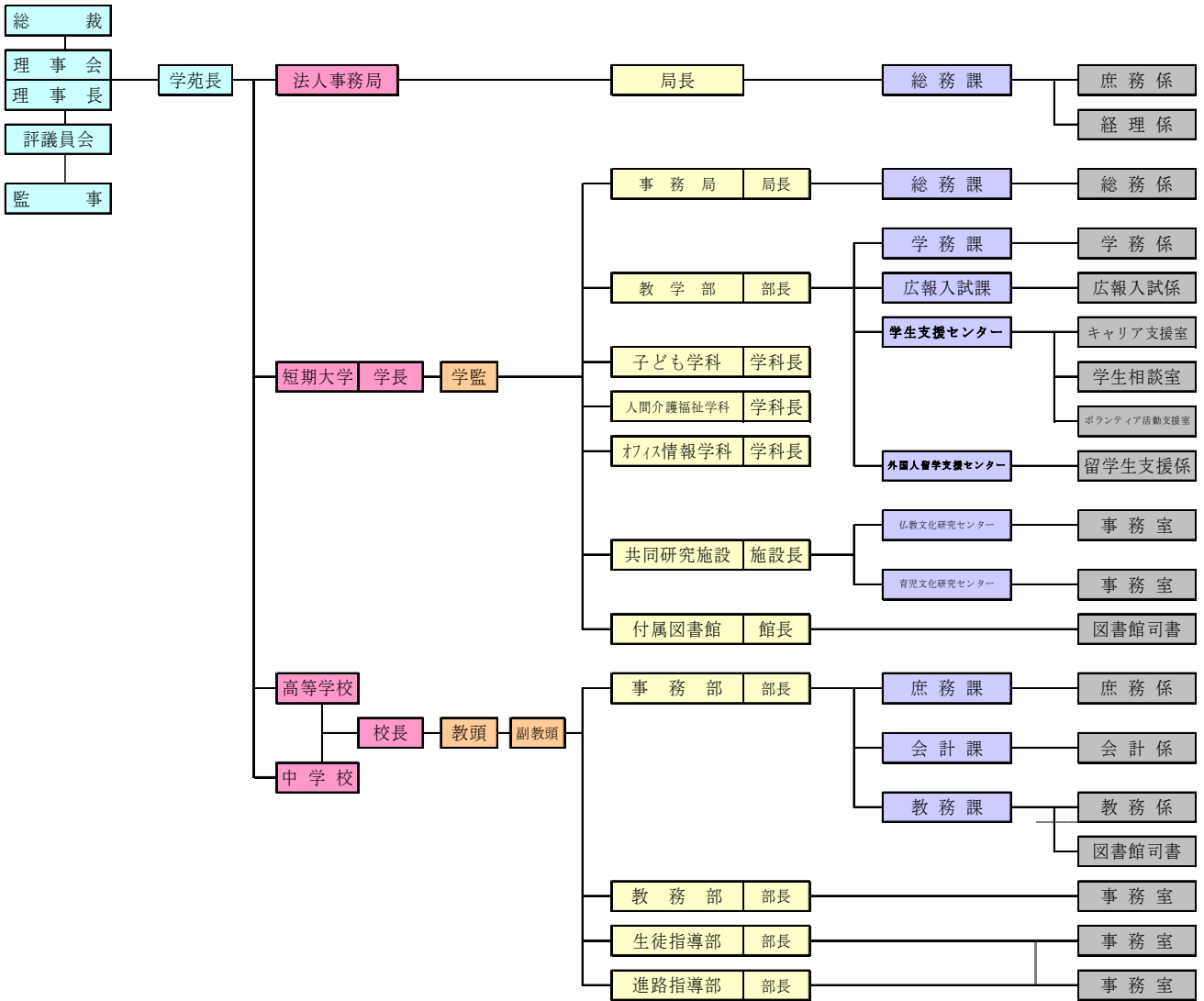
(3) 教職員数

(平成22年5月1日現在)

	教 員		職 員		合 計	
	本 務	兼 務 (嘱託・非常勤等)	本 務	兼 務 (嘱託・非常勤等)		
本 部	—	—	5名	2名	7名	
短期大学	子ども学科	15名	35名	10名	4名	64名
	人間介護福祉学科	7名	14名	2名	0名	23名
	オフィス情報学科	6名	23名	6名	0名	35名
高 等 学 校	96名	26名	10名	8名	140名	
中 学 校	29名	8名	3名	1名	41名	
合 計	153名	106名	36名	15名	310名	

(注) 学苑長(中高校長)は高等学校本務教員に、短期大学学長は子ども学科本務教員に含む
又短期大学の兼務教員数には後期採用者も含む。

高田学苑組織構成図



(4) 校舎敷地及び建物等の概要

校舎敷地

区 分		専用面積(㎡)	計面積(㎡)	所在地	権利の所属	備考
短期大学用地	校舎敷地	7,399	7,399	津市一身田豊野	自己所有	
	運動場用地	5,921	5,921	〃	〃	
	学生用駐車場用地	2,392	2,392	〃	〃	
	その他	3,279	3,279	〃	〃	緑地等
計		18,991	18,991			
上記以外の学校用地	中学校校舎敷地	1,274	1,274	津市一身田	自己所有	内 借用588㎡
	高等学校校舎敷地	15,180	15,180	〃	〃	内 借用578㎡
	中学校運動場用地	14,481	14,481	〃	〃	
	高等学校運動場用地	43,441	43,441	〃	〃	内 借用3,275㎡
	その他	3,939	3,939	〃	〃	内 借用1,663㎡
計		78,315	78,315			
合 計		97,306	97,306			
校地以外の土地		61,913	61,913	津市芸濃町河内	自己所有	山 林

校舎等建物<短期大学の部>

校舎等建物面積等				
区 分	面積(㎡)	室数	構 造	権利の所属
1号館	3155.60	33	鉄筋コンクリート造陸屋根 5 階建	自己所有
2号館	4163.75	38	鉄筋コンクリート造陸屋根 4 階建	〃
3号館	1743.64	15	鉄筋コンクリート造陸屋根 3 階建	〃
音楽棟	858.82	23	鉄筋コンクリート造陸屋根 3 階建	〃
図書館	803.19	8	鉄筋コンクリート造陸屋根 3 階建	〃
体育館	1983.96	15	鉄筋コンクリート造アルミニウム板葺 3 階建	〃
計	12708.96	132		

校舎等建物 <法人本部、高等学校・中学校の部>

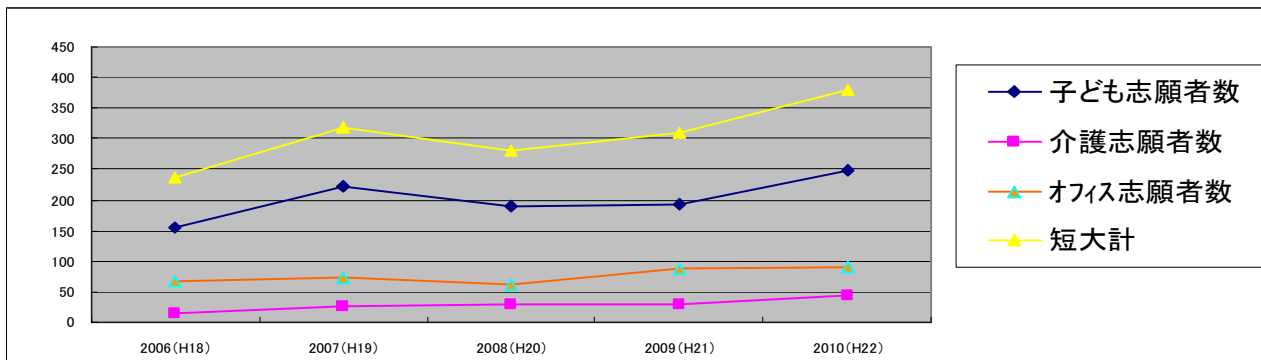
校舎等建物面積等				
区 分	面積(㎡)	室数	構 造	権利の所属
本 館	4,721.83	36	鉄筋コンクリート造陸屋根 7 階建	自己所有
1号館	2,722.10	25	鉄筋コンクリート造陸屋根 3 階建	〃
2号館	2,155.05	21	鉄筋コンクリート造陸屋根 3 階建	〃
3号館	2,609.31	13	鉄筋コンクリート造切妻屋根 5 階建	〃
4号館	3,125.59	16	鉄筋コンクリート造切妻屋根 5 階建	〃
5号館	4,113.15	29	鉄筋コンクリート造切妻屋根 5 階建	〃
東 館	468.12	5	鉄筋コンクリート造陸屋根 2 階建	〃
第1体育館	3,819.78	16	鉄筋コンクリート造陸屋根 3 階建	〃
第2体育館	1,889.03	12	鉄筋鉄骨コンクリート造切妻屋根 3 階建	〃
クラブハウス	422.10	29	鉄筋コンクリート造 2 階建	〃
プール施設棟	337.58	2	鉄筋コンクリート造 2 階建	〃
その他	209.72			〃
計	26,593.36	204		
合 計	39,302.32	336		

備考(その他)ノ用務員棟76.56㎡ 機械室6.62㎡ 車庫、倉庫28.73㎡ 渡廊下67.50㎡ テニスコート部室30.31㎡)

(5) 学生・生徒志願者数推移表 (平成22年5月1日現在)

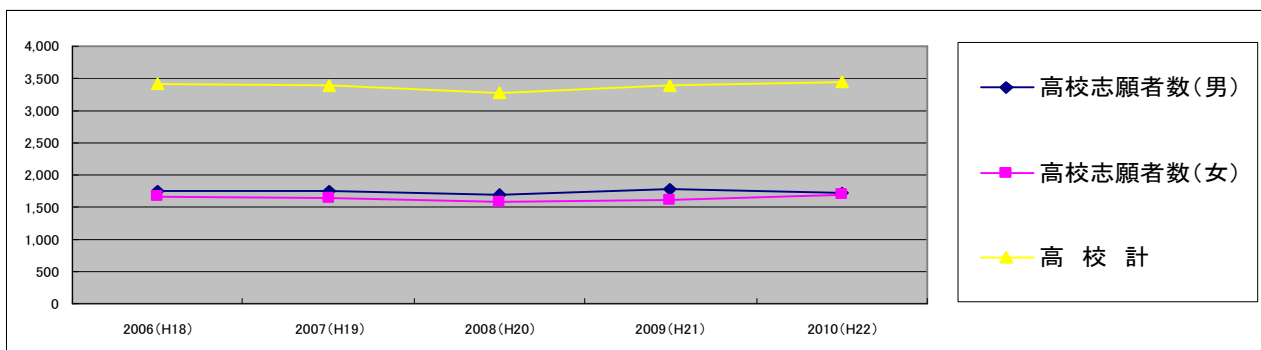
(単位:人)

高田短期大学	2006(H18)	2007(H19)	2008(H20)	2009(H21)	2010(H22)
子ども志願者数	155	221	190	192	247
介護志願者数	15	25	28	29	43
オフィス志願者数	68	72	62	88	91
短大計	238	318	280	309	381



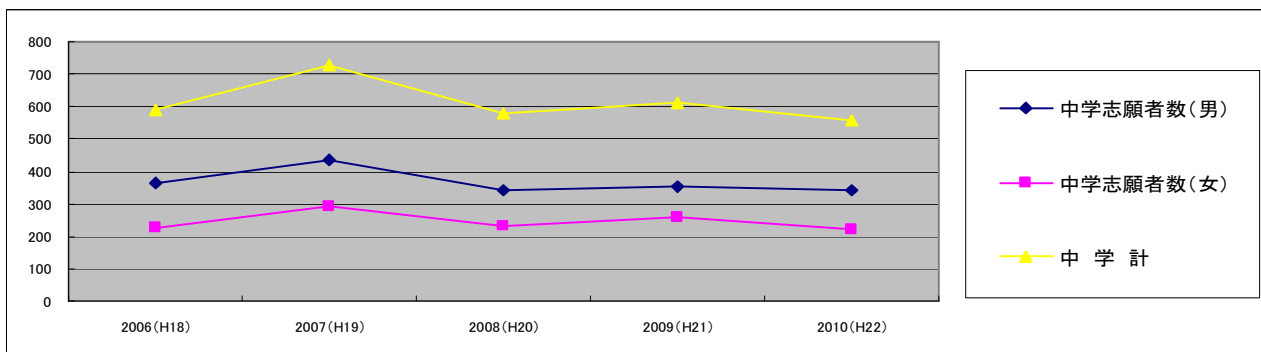
(単位:人)

高田高等学校	2006(H18)	2007(H19)	2008(H20)	2009(H21)	2010(H22)
高校志願者数(男)	1,755	1,747	1,684	1,774	1,729
高校志願者数(女)	1,655	1,630	1,584	1,612	1,706
高校計	3,410	3,377	3,268	3,386	3,435



(単位:人)

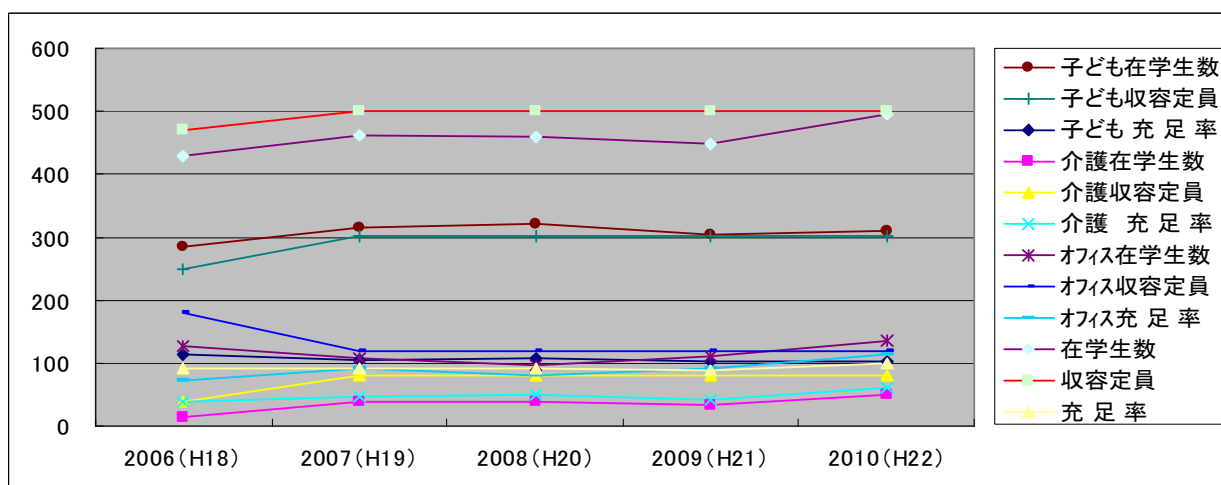
高田中学校	2006(H18)	2007(H19)	2008(H20)	2009(H21)	2010(H22)
中学志願者数(男)	363	436	344	355	341
中学志願者数(女)	227	295	234	260	218
中学計	590	731	578	615	559



(6) 学生・生徒在籍者数推移表(平成22年5月1日現在)

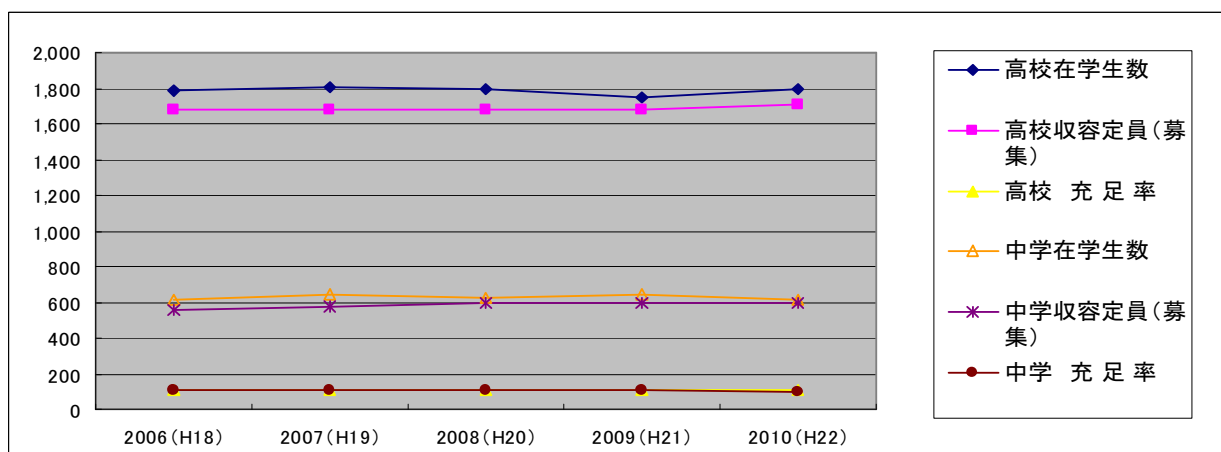
(単位:人・%)

区分	項目	2006(H18)	2007(H19)	2008(H20)	2009(H21)	2010(H22)
子ども学科	子ども在学生数	285	314	322	303	309
	子ども収容定員	250	300	300	300	300
	子ども充足率	114	105	107	101	103
人間介護福祉学科	介護在学生数	15	38	40	33	49
	介護収容定員	40	80	80	80	80
	介護充足率	38	48	50	41	61
オフィス情報学科	オフィス在学生数	128	109	97	111	136
	オフィス収容定員	180	120	120	120	120
	オフィス充足率	71	91	81	93	113
短大計	在学生数	428	461	459	447	494
	収容定員	470	500	500	500	500
	充足率	91	92	92	89	99



(単位:人・%)

区分	項目	2006(H18)	2007(H19)	2008(H20)	2009(H21)	2010(H22)
高田高等学校	高校在学生数	1,790	1,804	1,796	1,750	1,795
	高校収容定員(募集)	1,680	1,680	1,680	1,680	1,710
	高校充足率	107	107	107	104	105
高田中学校	中学在学生数	616	640	622	640	613
	中学収容定員(募集)	560	580	600	600	600
	中学充足率	110	110	104	107	102
中高計	在学生数	2,406	2,444	2,418	2,390	2,408
	収容定員	2,240	2,260	2,280	2,280	2,310
	充足率	107	108	106	105	104



2 事業実績の概要

<法 人>

(1) 教職員研修

平成22年8月20日(金)に毎年恒例の教職員研修を行いました。本年度は2部構成にし、第1部に社会人落語家の切磋亭琢磨氏を講師に迎え、「笑って考えよう!～日常の中にある人権問題～」と題し、落語をとおして人権問題をテーマに講演を行いました。第2部からは東京都立晴海総合高等学校教諭・千葉吉裕氏を講師に迎え、「キャリア教育について」と題し、今社会に求められている人間像をテーマに講演を行いました。いずれの講演のテーマも教職員にとって大変身近で興味深いものであり、皆真剣な表情で講演に聞き入っていました。



第1部講演の様子



第2部講演の様子

(2) 教職員の福利厚生事業の充実

本年は5月25日(火)、26日(水)、27日(木)の3日間に渡って教職員の健康診断を実施しました。高田学苑では学校保健法、結核予防法、労働安全衛生法に基づき、健康診断が毎年実施されています。

今回の健康診断では全教職員の内、約200名が受診しました。検査結果は個人に直接通知され、職員の健康管理に役立っています。

これに加え、高田学苑では、がんが疾病による死亡の最大の原因となっていることから、がん対策の一層の充実を図る為、11月9日(火)、10日(水)、12日(金)の3日間に渡って乳がん、腹部エコー及び前立腺がんなどの任意検診を行い、全職員の内、約90名が受診しました。



(3) 高田学苑表彰

(特別表彰)

○短期大学 教授 采翠 真澄 平成22年11月15日(月)

アジア鑄造技術史学会より2008年度の学術活動に対し、平成22年8月28日(土)に研究奨励賞を授与されました。この賞はアジアにおける鑄造技術史研究およびそれに関連した研究に寄与した者に対し、その功績を称えるために設けられた表彰制度で、今回、「江戸時代における丈六金銅仏の鑄造について～三重県松阪市・真楽寺銅造阿弥陀如来坐像の調査より～」の論文が評価されての受賞となりました。その栄誉をたたえ高田学苑長より平成22年度特別表彰を受賞されました。

○中・高等学校 教頭 梅林 久高 平成22年11月5日(金)

高田高等学校・高田中学校の教諭就任以来、30年の永きにわたり本学苑の建学の精神にのっとり、学苑の発展のため献身的な努力を重ねられた功績により平成22年10月16日(土)に三重県私学総連合会名誉会長賞を受賞されました。その栄誉をたたえ高田学苑長より平成22年度特別表彰を受賞されました。

○中・高等学校 教務部長 宮崎 昌久 平成22年11月5日(金)

高田高等学校・高田中学校の教諭就任以来、本学苑の建学の精神にのっとり、学校教育における教育実践等に顕著な成果をあげた実績により平成22年1月25日(月)に文部科学大臣優秀教員表彰を受賞されました。その栄誉をたたえ高田学苑長より平成22年度特別表彰を受賞されました。

(永年勤続表彰)

○短期大学 平成22年11月15日(月)

計1名

30年勤続 教 授 畠山 義啓

○中・高等学校 平成22年11月 5日(金)

計26名

40年勤続 講 師 古林 泰彦

35年勤続 教 頭 長谷川 博

教 諭 小田 新治

教 諭 寺本 かよ子

教 諭 大川 喜康

教 諭 嶋田 由美子

講 師 大原 寛

30年勤続 副 校 長 井ノ口 良雄

教 諭 畑中 利之

教 諭 千草 正道

25年勤続 教 諭 宇河 晴美

本 部 局 長 河北 浩峰

15年勤続 教 諭 眞岡 康光

教 諭 西村 英仁

教 諭 織田 元海

教 諭 市川 みちよ

教 諭 芳川 賢史

教 諭 伊佐山 清実

教 諭 高井 靖代

教 諭 春日部 英輝

教 諭 愛洲 祐希

10年勤続 教 諭 松本 和也

教 諭 北川 まき子

教 諭 芝山 賢司

教 諭 濱邊 博之

本 部 係 長 加藤 光博

(4) 安全衛生の取組強化

防災対策①

平成22年12月より中・高等学校及び短期大学に緊急地震速報受信システムを導入しました。これは震度5弱以上の地震が発生した場合、大きな揺れが到達する前に、校内に一斉放送で知らせることにより、生徒及び教職員の安全を確保するものです。

このシステムの導入により、既に運用している「地震・災害マニュアル」も、このシステムに対応したものに変更しました。



防災対策②

中・高等学校及び短期大学が平成21年10月に津市の地域防災一次避難所に指定されたことにより、災害時における情報伝達手段として、デジタル同報系防災行政無線を受信する事ができる個別受信機を設置しました。津市からの防災情報をタイムリーに受信する事で、地域防災の責を果たす事を目的としています。

(5) 大規模改修工事入札結果報告

平成22年5月28日に高田中・高等学校本館・2号館外装等改修工事、本館・1号館・2号館トイレ改修工事の施工会社決定の為の入札が行われました。詳細は以下のとおりです。

○学苑予定価格	150,000,000円
○入札日時	平成22年5月28日(金) 10時30分
○入札指名会社及び見積価格	(株) 浅沼組 151,000,000円 (株) 鴻池組 158,000,000円 東海土建(株) 157,800,000円 日本土建(株) 145,000,000円
○落札会社及び落札価格	日本土建(株) 145,000,000円

※価格は全て税別です

(6) 高田学苑理事会、監事会の開催報告及び監査法人監査報告

平成22年度も高田学苑寄附行為に基づき、計4回の理事会が開催されました。例年に比べ議題も多く、理事長以下真剣な討議を重ね、その結果全ての議案が承認されました。また、学校法人高田学苑では私立学校に義務付けられている監査法人及び監事の監査を受け、学校法人におけるガバナンスが適切に機能しているか外部から監督・指導を受けています。なお、各会の開催日と議題等は以下のとおりです。

<理事会>

- H22.5.28 高田中・高等学校本館・2号館外装等改修工事及び高田中・高等学校本館・1号館・2号館トイレ改修工事に係る予定価格の決定について
高田中・高等学校本館・2号館外装等改修工事及び高田中・高等学校本館・1号館・2号館トイレ改修工事に係る請負業者及び請負金額の決定並びに請負契約の締結

について

平成21年度決算の承認について

学校法人高田学苑給与規程の一部改正について

H22.9.24

高田短期大学学則の一部改正について

高田短期大学オフィス情報学科の名称変更による関係諸規程の一部改正について

H22.11.9

特定資産の振替について

平成22年度第1回収支補正予算について

学校法人高田学苑寄附行為の一部改正について

学校法人高田学苑組織規程の一部改正について

高田学苑学生生徒等の個人情報保護に関する規程の一部改正について

H23.3.28

平成22年度第2回収支補正予算について

平成23年度収支当初予算について

国有地の払い下げについて

高田短期大学教育研究施設「仏教教育センター」の設置について

学校法人高田学苑役員評議員報酬規程の一部改正について

学校法人高田学苑組織規程の一部改正について

育児休業・介護休業等に関する規程の一部改正について

高等学校生徒授業料軽減措置規程の一部改正について

高田短期大学奨学金規程の制定について

高田中学校授業料等生徒納付金助成規程の制定について

学校法人高田学苑マイカー通勤規程の制定について

高田短期大学名誉教授の称号の授与について

<監事会>

H22.5.26

平成21年度決算審査

平成21年度事業実績報告

平成21年度における学校法人の管理運営等に関する事項

平成22年度事業計画書について

H22.11.5

平成22年度事業報告書（中間）及び財務の概要

平成22年度現金及び有価証券等の状況

平成22年度第1回補正予算について

<監査法人監査>

監査法人名：五十鈴監査法人

H22.4.2

現金・通帳・証書の実査

H22.5.19他

平成21年度決算監査

H22.9.9

平成22年8月分までの取引記録の監査

H22.12.9

平成22年11月分までの取引記録の監査

H23.1.6

平成22年11月分までの取引記録の監査

H23.2.24

平成23年1月分までの取引記録の監査

H23.3.29

平成23年2月分までの取引記録の監査

3 教育研究活動の実績

高田短期大学

<短大全体>

(1) 「大学教育・学生支援推進事業」【テーマB】学生支援推進プログラム

取組名称 「キャリアカルテを用いた生涯就職支援システムの構築」

取組期間 平成21年度～23年度

総事業費 25,000千円

補助金内定額 12,500千円

(平成22年度分)

取組概要

本年度の目的は、キャリアカルテシステム（学習ポートフォリオや就職情報ポータルサイト含む）を用いて、学生に対してエンロールメントマネジメントを展開し、学士力の向上と総合的な就職支援することです。卒業生の就職満足度や企業・幼稚園・保育園・施設等に調査結果を参考にして、カリキュラムの検討や就職支援の在り方等の改善をします。これらの取組でキャリアカルテシステムの運用を学内 Web からインターネットへと拡大と改善を進め、携帯電話も活用できるようにして学生と教職員のつながりを強化し、学生の満足度と採用先の満足度を高める。この満足度追跡調査や懇談会等で確認し、今後の取組改善につなげ、学生に対するアドバイザー教員や学生支援センター職員による一貫性のある指導体制をさらに充実していきたいと思えます。

(2) オープンキャンパス実施結果

1) 日時

①第1回 平成22年6月19日（土）13:00～16:30

②第2回 平成22年7月25日（日）13:00～16:30

2) 参加者数

	第1回(6/19)	第2回(7/25)	合計
子ども学科	177名	199名	376名
人間介護福祉学科	21名	21名	42名
オフィス情報学科	44名	56名	100名
計	242名	276名	518名

3) 実施スケジュール

13:00～13:20 全体説明会

13:25～16:30 各学科説明・体験・相談

(3) 進学相談会の実施結果

1) 日時

①第1回 平成22年7月10日（土）13:00～15:00

②第2回 平成22年10月2日（日）13:00～15:00

2) 参加者数

	第1回(7/10)	第2回(10/2)	合計
子ども学科	29名	9名	38名
人間介護福祉学科	3名	4名	7名
オフィス情報学科	5名	3名	8名
計	37名	24名	53名

3) 実施スケジュール

- ①子ども学科（会場：7/10…122教室、10/2…育児文化室）
 - ・13:00～15:00 個別・グループ別相談会
 - ・随時 学内見学
- ②人間介護福祉学科（会場：介護実習施設）
 - ・13:00～15:00 個別相談会、学内見学
- ③オフィス情報学科（会場：第6演習室）
 - ・13:00～15:00 個別相談会、学内見学

(4) みえアカデミックセミナー2010 ～心豊かな人生へのアクセス～

1) 公開セミナー

- ①日 時 平成22年7月23日(金) 13:30～16:00
- ②会 場 三重県生涯学習センター2F 視聴覚室
- ③担 当 講演：オフィス情報学科、挨拶：子ども学科、司会：人間介護福祉学科
- ④大学テーマ 「家族円満のすすめ」
- ⑤日 程
 - 13:00～ 受付開始
 - 13:30～13:40 開会挨拶
 - 13:40～14:40 講演①「相続と贈与の仕組み」助教 田中 薫
 - 14:40～14:50 休憩
 - 14:50～15:50 講演②「地域が育む若者の底力ー学生が変わるとき」ボランティア活動支援室担当 杉谷 哲也
 - 15:50～16:00 質疑応答
 - 16:00 終了

⑥参加者数等

当日は、当初の申し込みをやや下回る一般68名、本学教職員7名、計75名が参加、田中講師は、相続が“争”続にならないようにするための注意点や相続および贈与の仕組み、遺言について分かりやすく解説されました。

杉谷講師は、タイ山村の学校でボランティア活動に参加した学生の心境の変化を紹介された、また、本学人間介護福祉学科の学生（1名は外国人留学生）を交えて学生を支援する地域（周囲の人々）の重要性について熱く語られ、参加者より励ましの声援を受けました。

2) 移動講座

- ①日 時 平成23年1月23日(日) 13:30～15:00
- ②会 場 三重郡川越町 中央公民館
- ③講 師 子ども学科 准教授 橋本 景子
- ④演 題 「カウンセリングの立場から見た子育てにおいて大切なこと」

—最近の事件から考える—

- ⑤参加費 無料
- ⑥共催 川越町教育委員会
- ⑦参加者数等

当日は、小中学生を持つ保護者および教育関係者60名が参加し、子育てにおいて大切なことは何かを実例を交えながらカウンセリングの立場から提起されました。

(5) 大学サロンみえ

「大学サロンみえ」は、県民支援事業の一環として県（三重県政策部企画室）が県内の高等教育機関に呼びかけ、相互の情報共有および意見交換等により県と各高等教育機関との連携強化を図るほか、今後の取り組みにおける連携の検討の場と位置付けています。今年度は、つぎのとおりSD研修会を実施しました。

- ①日時 平成23年1月21日（金）13：15～15：30
- ②会場 三重県総合文化センター大会議室
- ③講師 山形大学 地域教育文化学部教授 小田 隆治 氏
- ④演題 大学—地域連携と職員の企画能力開発～山形大学のSDと『エリアキャンパスもがみ』～

(6) 「馬とふれあう親子ひろば in 高田パーク2010」

- ①開催日時 平成22年11月23日（火曜・祝） 9：40～14：00
- ②開催場所 高田中高等学校（馬場）
- ③参加人数 親子・家族約80組（約300名）
- ④参加費 無料
- ⑤内容 馬術部員による馬術演技に始まり、「馬車でお散歩」、「体験乗馬」、「写生大会」、「仏典童話（人形劇）」、「ふるまい豚汁」、「ロディ君であそぼう」「バルーンで馬づくり」「馬とのふれあい」など多彩な催し物やコーナーでにぎわいました。高田中高等学校生、高田短期大学生がボランティアとして参加し、活躍しました。



<子ども学科>

(1) 高田短期大学保育セミナー（コミュニティカレッジ）

第7回高田短期大学保育セミナーを「子育て支援の充実を目指して」と題して下記のとおり開催しました。

- ①講座1 子育て支援の現状と課題 講師：小田 義隆（子ども学科 准教授）
- ②講座2 子どもの健康といのちの教育 講師：宮崎 つた子（子ども学科 教授）
- ③開催日時 平成22年7月11日（日）13：30～16：10（受付開始13：00）
- ④参加費 1,000円（学生500円）
- ⑤開催場所 高田短期大学 121教室
- ⑥参加人数 16名

(2) 平成22年度総合的な地域活性化事業

1) 学科プロジェクト 「親子のためのあそび広場」

収穫したサツマイモを使って高田保育園の園児と料理交流会を催し、食物の大切さや命の大切さを体験的に学びました。

4月	16日	食育応援隊結成（新2年生20名）
5月	6日	バケツ稲の植え付け
5月	31日	サツマイモ畑に石灰まき、施肥
6月	3、4日	サツマイモ苗の植え付け
9月	28日	試し掘り
10月	1日	稲刈り
10月7、14日		サツマイモ収穫
10月	19日	試し掘り
10月	28日	収穫（1回目）
10月	29日	収穫（2回目）
1月	15日	サツマイモを使ったお菓子作り



2) 学科プロジェクト「わくわくキッズランド」

学生による「キッズランド実行委員会」を結成し、イベントの企画と準備等の主導を行いました。「動いて楽しむ」「作って楽しむ」「みて・表現して楽しむ」をテーマにゼミグループ単位で取り組み、高短祭で親子が安心して楽しく遊べる体験ブースを設け、多くの参加があり、好評でした。

3) あのとアカデミー・家庭教育支援コーディネーター養成講座（地域連携推進事業）

津市教育委員会との共催事業で、平成22年10月～12月に計5講座を実施しました。

4) 子ども学科年報

1月に1,500部を印刷し、学内及び関係機関へ配布しました。

<人間介護福祉学科>

(1) 人間介護福祉学科地域連携推進事業

昨年度に引き続き、高田本山十万人講財団の補助金を得て、地域の高齢者や障害者の方々と学生、教員との交流を深める取り組みを実施することができました。前期は3回実施し、高齢者の具体的な戦争体験などを直接聞き、学生との交流がなされました。

(2) 福祉・介護サービスチャレンジ教室

厚生労働省の「潜在的有資格者等養成支援事業」の補助金を得て、一般市民向けの講習会を8月と9月に、計6回実施しました。

- ① 8月22日（日）「認知症予防そろばん教室」（倉田 充 氏・元本学教授）
「認知症予防お笑い教室」（桂 三発 師・落語家、津市議会議員）
- ② 8月28日（土）「やさしい介護保険教室」（山田 亮一・本学准教授）
- ③ 9月 4日（土）「高齢者のリハビリ教室」（高山 文博・本学非常勤講師）
- ④ 9月11日（土）「認知症の介護教室」（泉 美幸 氏・認知症の人と家族の会三重県支部代表）
- ⑤ 9月18日（土）「やさしい家庭介護教室その1」（中村 智子・本学助教、織田 紀代子・本学非

常勤講師)

⑥9月25日(土)「やさしい家庭介護教室その2」(中川 千代・本学助教、中村 智子・本学助教)

(3) 介護技術講習会

昨年に引き続き、介護福祉士国家試験の実技試験免除のための講習会である「介護技術講習会」を本学介護実習施設において実施しました。受講者は介護業務に3年以上従事した方で、14名が講習を修了しました。

- ①開催日 5月22日(土)、23日(日)、6月5日(土)、6日(日)
- ②主任指導者 中川 千代(本学助教)
- ③指導者 長岡 さとみ(本学准教授)、織田 紀代子(本学非常勤講師)

(4) 学科プロジェクト「高齢化に伴う津市河芸・一身田地区住民による見守り体制の構築」

昨年に引き続き、津市社会福祉協議会との共同で、河芸地区における高齢者のサロンを実施しました。地区社協、自治会、本学学生、教員が地域作りに参画して、実践的な学習の場としています。また、今後は、一身田地区でも同様の取り組みを実施することとしています。

(5) 学科プロジェクト「高齢者福祉施設との連携・協働によるレクリエーション行事の企画運営」

特別養護老人ホーム報徳園の職員と本学学生、教員とが連携・共同して入所者のためのレクリエーション行事を行うプロジェクトです。前期は計画段階で具体的な行事は行いませんでしたが、後期の実施に向けて検討してきました。

<オフィス情報学科>

(1) 学科プロジェクト「オフィス人材育成研究の場おこしプロジェクト」

参加企業の中には本学の学生にとって望ましい就職先と考えられる企業名も多く含まれていたため、急遽学生の参加者数を増やし、座談会へ参加し、積極的に意見交換を行いました。また、年度途中で三重県中小企業家同友会の賛同を得、研究会を実施しました。実施内容は次のとおりです。

1) 四日市商工会議所との共同セミナー

- ①実施日 平成23年2月24日(木) 14:00~16:30 四日市商工会議所1階ホール
- ②テーマ 問題社員を会社の宝に変える方法 ~今どきの若者との接し方・育成指導法を考える~
- ③参加者 企業44名(2名欠席)、本学教職員、学生

2) 三重県中小企業家同友会における研究会

- ①実施日 平成22年10月20日(水) 14:00~16:00 じばさん三重
- ②テーマ 求人・雇用情勢の展望と企業課題
1部講演「中小企業における今後の人財戦略を考える」 2部討論会
- ③参加者 企業(共同求人研究会会員18名)
1部講師、2部討論会コーディネーター オフィス情報学科 杉浦 礼子 准教授

(2) 学科プロジェクト「働く女性応援プロジェクト」

現在女性の労働に対する意識や、働くことを続けるためにどのような基盤が必要であるのかのニーズ調査など産学連会して実施し、提言をいたします。なお、アンケート調査を実施し、結果

は、三重県や市町等と連携し開催した講演会会場にて発表したほか、「みえチャレンジシンポジウム」で調査結果のポスター展示を行いました。

①「ワーク・ライフ・バランスセミナー」

主催：三重県、松阪市、松阪商工会議所、21世紀職業財団
日時：平成22年10月13日（水）14：00～16：00
会場：松阪商工会議所第2研修室にて
講師：オフィス情報学科 杉浦 礼子 准教授
参加者：31名

②男女共同参画フォーラム2010 一人ひとりの働き方、生き方

「よりよい職場の作り方～男女がいきいき働くために～」にて調査結果を活用した講演会

主催：三重県、男女共同参画センター「フレンテみえ」
日時：平成22年11月13日（土）10：00～12：00
会場：三重県総合文化センター
講師：オフィス情報学科 杉浦 礼子 准教授

③企業のためのワーク・ライフ・バランスセミナーにて調査結果を活用した講演会

「人材定着・業績向上を実現するワーク・ライフ・バランスセミナー」

主催：三重県、伊賀市、名張市、21世紀職業財団
日時：平成22年11月19日（金）14：00～16：00
会場：ゆめぼりすセンター 大会議室
講師：オフィス情報学科 杉浦 礼子 准教授

④みえチャレンジシンポジウムにて調査結果をポスター展示

主催：三重県
日時：平成23年2月10日（木）13：30～16：30
会場：三重県総合文化センター
担当：オフィス情報学科 杉浦 礼子 准教授、川喜田 多佳子 講師

現代の社会環境と労働者意識の現状を統計データから把握していただいた上で、プロジェクトで入手した結果を交えながら女性の能力を活用することの必要性・有用性について伝え、ご理解を得ました。

(3) 学科プロジェクト

「一身田寺内町活性化プロジェクト」

寺内町活性化プロジェクトは、1年生の前期科目であるビジネスリテラシー演習を利用し、寺内町活性化に関する調査を実施しました。はじめに寺内町に関する知識修得のために、高田中・高等学校の梅林教頭先生に高田本山と寺内町の歴史などについての講義を実施していただき、その後、各グループに別れて調査した結果の中間報告会を7月20日に実施しました。



なお、寺内町活性化に関する研究成果は、大学祭（10月23・24日）にて展示を行い、その後、学生が寺内町に関する基本的な資料を作成しました。

(4) 学科プロジェクト「学生と地域情報ボランティアによるシニア・子どもパソコン教室」

1) 情報ボランティア学習会の実施

生涯学習者としてのコンピュータ、ネットワークの学習と教室開催の準備学習を行いました。
シニア・子どもパソコン教室の運営を学生たちと共同で行っています。

- ① 4月定例学習会 4月30日(金) 18:30~21:00 参加者 8名
学内第4演習室 PC1教室
- ② 5月定例学習会 5月28日(金) 18:30~21:00 参加者 8名
学内第4演習室 PC1教室
- ③ 7月定例学習会 7月9日(金) 18:30~21:00 参加者 8名
学内第4演習室 PC1教室
- ④ 9月定例学習会 9月6日(月) 18:30~21:00 参加者 8名
学内第4演習室 PC1教室

2) 平成22年度第1回シニアパソコン教室開催

平成22年6月6日(日)、高田短期大学PC1教室において、今年度最初の「シニアパソコン教室(津市中央公民館の課題講座)」初心者コースを開催しました。講座を担当したのは、本学公開講座受講者OBが中心となって設立した「情報ボランティアみえ」のボランティアの皆さんとオフィス情報学科の学生です。今回は、20名の定員枠に50名を超える応募があり、60代から70代までの20名の方が参加しました。当日は、Ustreamで様子を一部ライブ中継しました。

津市中央公民館の主催者挨拶、オフィス情報学科学科長の会場代表挨拶、情報ボランティアみえ会長の挨拶が順に行われ、最後に学生代表が挨拶を行い講座が始まりました。



講座は、受講者一人か二人に一人のスタッフがつく体制で進めました。講座の内容は、パソコンの用語、起動方法、ウィンドウ操作、マウス操作、文字入力、インターネットの利用方法などです。学生は、シニアの方に教えるのは初めての体験でしたが、シニアの方々の積極的な受講態度にひっぱられるように、一所懸命に話していました。講座中や、お昼の食事中などもお互いにコミュニケーションを欠かすことなく、受講者の方々、ボランティアの皆さん、そして学生のみennaにとって大変充実した楽しいひと時となったようです。

受講者の感謝の言葉を受けて、無事講座は終了しました。終了後のアンケートによると、やはり難しいという声が多くありましたが、全員が満足し、次回も参加したいという結果を頂きました。その後スタッフ全員で反省会を行い、最後に記念撮影をして解散しました。

3) 第2回シニアパソコン教室開催

平成22年7月11日(日)、今年度第2回目のシニアパソコン教室を本学のPC1教室で開催しました。津市中央公民館と連携し、「情報ボランティアみえ」のボランティアの方々とおフィス情報学科の学生9名が、スタッフとして講座を運営しました。

今日の講座は、「生活に役立つネット利用」というテーマでした。午前中は、留学生の挨拶から始まり、ブラウザの使い方、ヤフーを使った検索やネットサービスの利用の基本、ネット検索の練習、そしてGoogle Appsを利用してのメールの送受信を体験しました。午後は、ボランティアの方が構

築した仮想のネットショッピングサイトを使って、Web での注文から確認メールの到着まで、ネットショッピングを疑似体験しました。次に、今流行りのツイッターを学生の説明で体験しました。スタッフが最初につぶやき、それを受講者同士でフォローしあいました。その後、学生から、ネット利用の事例紹介をして、無事に講座は終了しました。

アンケートでは難しいという意見も頂きましたが、ほとんどの方から、また参加したい、自信がついたという結果を頂きました。最後に、ボランティアと学生が反省会をしました。ボランティアの方々から学生の対応やツイッターの説明などが良かったという評価を頂きました。講座の様子は、Ustream でライブ中継しました。

※シニアパソコン教室 URL : <http://www.takada-jc.ac.jp/jvmie/sinia/index.htm>

<図書館・仏教文化研究センター>

(1) 高田短期大学公開講座

1) 「『文書をセンスアップ!』 Word レイアウト&デザインテクニック」

①日 程 平成22年6月26日(土) 参加者39名

②講 師 川喜田 多佳子 講師

・講座では、Word2007の基本的な操作について解説があった後、実際にテキストに沿ってレイアウトやデザインの実習が行われました。実習では、便利な操作方法や簡単にできる裏技も紹介され、受講者の方々はメモを取ったり、質問をする等、熱心に取り組まれました。

2) 「安寧なまちづくり(河芸町の実践を通して)」

①日 程 平成22年7月3日(土) 参加者11名

②講 師 佐藤 完 教授

・講座では、津市河芸町千里ヶ丘地区で近隣の高齢者の集う場、地域住民の課題を共有する場として定期的に関われている「喫茶わらい」の実践が紹介されました。この「喫茶わらい」の活動には本学の学生も参加しています。こうした活動の具体的な体験談をおりませた内容に、参加者からは自分たちの地域で実践していくにはどうすればよいのかなどの質問が出されました。

3) 「クラウドコンピュータ活用術 インターネットをもっと活用しよう」

①日 程 平成22年7月31日(土) 参加者28名

②講 師 鷲尾 敦 教授

・講義では Google や Yahoo 等の基本的な使いかたから、インターネット上で使える様々な無料サービスを紹介し、実際にパソコンを使って受講者に利用していただきました。

Google のストリートビューや、いま話題の twitter を利用した際には受講者の方から歓声が上がリ、最近のインターネット活用法を楽しみながら学んでいただけました。

4) 「子どもの心と大人の心」

①日 程 平成22年8月21日(土) 参加者18名

②講 師 小池 はるか 助教

・講義では、子どもの心理と大人の心理の比較を通して、子どもは言語能力や思考の柔軟性が大人よりも優れており、大人と比べて何も出来ない未熟な状態であるわけではないということが解説されました。受講者も積極的に質問され、熱心に講座を受けられていまし

た。

5) 「はじめの1歩 Word2007 入門講座」

①日 程 平成23年1月23日(日) 参加者27名

②講 師 鷺尾 敦 教授、川喜田 多佳子 講師

・Word2007の起動、文字入力・編集、ページ設定、文書の保存、ファイルの開き方、表作成の基本、図形描画、印刷という内容で実習が行われました。

(2) 仏教文化研究センター公開講座

1) 「親鸞真筆の世界」

①日 程 平成22年9月18日(土) 参加者24名

②講 師 新 光晴 氏(専修寺宝物館主幹、本学仏教文化研究センター客員研究員)

・親鸞聖人のご真筆に関わるレプリカや写真、貴重な書物など、実に多くの資料を見せていただき、さらに休憩時間には受講生の皆様が講義室前に集まり、その資料を実際に手にとってご覧いただきました。受講者からは「配布資料をいただけるだけでも十分に価値のある講座だ」という声すら聞かれました。もちろん講義内容も充実しており、親鸞聖人のご真筆を時代の変遷に沿って見ていきながら、親鸞聖人または真宗教団に起こった出来事と照らし合わせ、また文字の特徴や書簡の内容から、親鸞聖人の人柄を考察するなど、大変興味深く、楽しい講座でした。

2) 「現代人の宗教観と真宗」

①日 程 平成22年10月2日(土) 参加者31名

②講 師 藤田 正知(高田中・高等学校教諭)

・講座の前半は現代の日本人がどのような宗教行為を行っているのかを概観し、その後仏教の基本的な教えや真宗の考え方を分かりやすく解説していきました。31名の受講者と当センター運営委員3名は真剣に耳を傾け、現代人の宗教観と真宗が示唆するもの、自分を知ることの大切さが真宗の神髄であることを理解した、爽秋のひとつときでありました。

(3) 仏教文化研究センター仏教入門講座

・テーマ:「仏典童話(花岡大学著)を楽しむ」

第1回	平成22年	4月20日(火)	新 光晴	研究員	参加者: 43名
第2回	平成22年	5月19日(水)	金信昌樹	研究員	参加者: 35名
第3回	平成22年	6月24日(木)	藤田正知	研究員	参加者: 34名
第4回	平成22年	7月21日(水)	清水谷正尊	研究員	参加者: 30名
第5回	平成22年	8月25日(水)	栗原廣海	学長・センター長	参加者: 32名
第6回	平成22年	9月17日(金)	松山智道	主任研究員	参加者: 29名
第7回	平成22年	10月13日(水)	新 光晴	研究員	参加者: 24名
第8回	平成22年	11月17日(水)	金信昌樹	研究員	参加者: 28名
第9回	平成22年	12月16日(木)	藤田正知	研究員	参加者: 19名
第10回	平成23年	1月20日(木)	清水谷正尊	研究員	参加者: 22名
第11回	平成23年	2月18日(金)	松山智道	主任研究員	参加者: 17名
第12回	平成23年	3月14日(月)	栗原廣海	学長・センター長	参加者: 22名

(4) 仏典童話人形劇サークル(縁起人)の活動

仏典童話人形劇サークル「縁起人」(えんぎんちゅ)の活動を行い、地域、特に仏教保育を行っている保育所・幼稚園での公演を通して、幼児期の仏教精神に基づいた人間教育の方法を提案すると共に、実際に子どもたちの柔らかな心の育成の支援に取り組んでいます。

仏典童話人形劇団「縁起人」の公演

第1回	7月 3日(土)	白塚愛児園
第2回	11月 7日(日)	元気っ津まつり
第3回	11月23日(火)	馬とふれ合う親子フェスタ

(5) 学内仏教行事の実施

- ・ 新入生本山参詣 4月 2日(金) 講師:栗原 廣海学長
- ・ 宗祖降誕会 5月17日(月) 講師:梅林 久高氏(高田中・高等学校教諭)
一般参加者:9名
- ・ 灌 仏 会 6月21日(月) 講師:伊東 信道氏(真宗高田派大円寺住職)
一般参加者:6名
- ・ 追 弔 会 10月18日(月) 講師:藤井 徳雄事務次長兼総務課長
- ・ 報 恩 講 12月 6日(月) 講師:栗原 廣海学長
一般参加者:27名

(6) 研究会の開催

研究テーマ:「真慧上人著『顕正流義鈔』の研究」 仏教文化研究センター研究会

- ・ 第1回 日 時: 7月30日(金)
内 容: 『顕正流義鈔』の補註の検討第1回
- ・ 第2回 日 時: 9月24日(金)
内 容: 『顕正流義鈔』の補註の検討第2回
次の仏教入門講座の講義テーマについて

<育児文化研究センター>

(1) 子育て応援隊について

8月末までに、幼稚園や保育園、子育て支援センターの行事の手伝い、保育研修会、子どもイベントのスタッフなど活動件数14件(別紙:子育て応援隊活動内容一覧)

(2) センターだより「IKUBUN NEWS12号」6月下旬 700部発行

(3) 地域子育て支援事業「子育て・子育て支援 元気っ津まつり」について

日 時: 11月7日(日) 10:00~15:00

「津市次世代育成支援行動計画関連事業」の一環としての事業で、本学が津こどもNPOセンターと共にコアメンバーとして参画。子育て・子育て支援の推進と子育て支援団体のネットワークづくりを目的とした取り組みである。

○参画内容

- ・「全体企画」「出展ブース」「ステージブース」の各スタッフ。
- ・高短出展ブース:「あそびひろばたかたん」「子育て相談」「バラバルーン」「元気っ津ダンス」「人形劇(仏文センター連携)」担当 教職員9名、学生44名(子ども学科・オフィス情報学科の1年・2年)
- ・その他:バルーン会場装飾・受付・抽選会補助・パンフレット印刷など

○実施経緯及び実施状況

- ・本取組の発足から当日に至るまで、合計15回の会議(子育て子育て支援会議および元気っ津まつりワーキング7回、準備のためのコア会議8回)に、高田短大としてセンターが参画した。
- ・津市子育て・子育て支援会議は、イベントを行うことを主目的とするのではなく、その過程において子育てに関する各団体のネットワーク構築を目的としている。
- ・当日は1, 800人余りの来場があり、関係者も含めて2, 000人程度の参加者があった。

別紙

平成22年度子育て応援隊 活動内容一覧

No	月日	日	時間	行事名	依頼内容	人数	場所	主催団体
1	4月4日	日	13:00～15:00	花まつり	幼児～小学生低学年の子どもの託児とバルーン体験	3	天台真盛宗 福満寺	天台真盛宗 福満寺
2	5月16日	日	9:30～16:00	名張育成苑まつり	着ぐるみを着てお菓子の配布・模擬店の補助	11	名張育成苑	社会福祉法人 名張育成会
3	6月6日	日	9:00～16:00	第55回三重県・第48回中勢地区母親大会	乳幼児・学童の保育	8	久居市民会館	第55回三重県・第48回中勢地区母親大会実行委員会
4	6月6日	日	10:00～15:00	バルーンの作成・配布	バルーンの作成・配布	12	津リージョンプラザ1階	歯の衛生週間事業実行委員会
5	6月27日	日	10:00～16:00	第10回 ぐみの木まつり	まつりの保育及び模擬店の手伝い	7	ぐみの木ほいくえん	社会福祉法人鈴生会 ぐみの木ほいくえん
6	7月3日	土	9:00～16:00	豊かな就学前人権教育実践交流会	研修会の受付・書籍販売等	10	高田短期大学	(社)三重県人権教育研究協議会
7	7月10日	土	17:00～19:30	まつさか幼稚園 納涼大会	バザー販売・設営の手伝い、ゲームコーナー設置・運営等	9	まつさか幼稚園 園庭	まつさか幼稚園
8	7月17日	土	14:00～20:00	高田保育園 夏まつり	バルーンの作成・装飾、模擬店の応援	26	高田保育園 園庭	高田保育園
9	7月21日	水	16:30～20:00	高田幼稚園 夏まつり	模擬店の手伝い・園児引率の補佐	22	高田幼稚園 園庭	高田幼稚園
10	7月24日	土	14:00～20:00	あかつき保育園 夏まつり	各ブースの応援	6	あかつき保育園 園庭	あかつき保育園
11	8月20日	金	9:30～16:15	学生さんと楽しく遊ぼう	学生が活動内容を決め、親子と一緒に遊ぶ	10	芸濃子育て支援センター ぶちぶち	芸濃子育て支援センター ぶちぶち
12	8月28日	土	10:00～16:00	みえの子ども応援プロジェクト「わくわくチャレンジタウン」	運営補助・子どもたちの傾聴及び交流	17	メッセウイングみえ	三重県健康福祉部こども局未来室
13	8月30日	月	13:00～16:00	みえの子ども応援プロジェクト「よっかいちステーション」	読み聞かせ・大型らくがき等の運営補助	3	ララスクエア四日市	三重県健康福祉部こども局未来室
14	8月31日	火	13:00～16:00	みえの子ども応援プロジェクト「よっかいちステーション」	読み聞かせ・大型らくがき等の運営補助	3	ララスクエア四日市	三重県健康福祉部こども局未来室
15	11月7日	日	9:00～16:00	元気っ津まつり2010	親子あそびひろば・人形劇・ハッパルーン・元気っ津ダンス相談コーナー託児	44	芸濃保健センター 芝生広場	津市 津市子育て・子育て支援会議
16	11月20日	土	10:00～12:00	子育てママのホットひろば	子どもの託児	6	津リージョンプラザ	津市子育て子育て支援システム地域運営協議会
17	11月20日	土	9:30～12:00	しも祭	ツイストバルーン指導・製作サポート	4	津市立北立誠小学校	津市立北立誠小学校PTA
18	11月21日	日	8:30～15:00	梅村幼稚園文化祭	着ぐるみを着ての募金活動・全体運営補助	3	梅村幼稚園	三重中京短大附属梅村幼稚園
19	12月4日	土	8:00～12:30	生活発表会	園児の着替え等の補助・舞台設定の手伝い	16	高田短期大学講堂	高田幼稚園
20	2月20日	日	10:00～12:00	子育てママのホットひろば	子どもの託児	13	津リージョンプラザ	津市子育て子育て支援システム地域運営協議会
21	2月26日～27日	土日	8:00～15:30	梅村幼稚園「音楽フェスティバル」	会場受付・園児のお世話・楽器、道具の出し入れ	10	松阪市民文化会館	三重中京短大附属梅村幼稚園
22	3月9日	水	9:00～12:00	音楽で楽しむふれあいあそび	歌あそびと音楽による絵本の読み聞かせなど	4	北勢町子育て支援センター すこやか	メシュレいなべ 北勢地区

＜外国人留学生支援センター＞

平成11年から外国人留学生の受入を行なっているが、これまで専門の部署、および委員会は設置されていなかったため、今年度より事務局内に外国人留学生支援センターを設置し、留学生に対する総合的な生活支援を行ないました。

支援内容は、短大近辺のアパートと契約を結び、安価で留学生に下宿の提供を行ない、他にも生活家電や生活日用品の貸与、入国管理局への諸手続きの代行、アルバイトの斡旋、進路指導、(進学・就職先の斡旋)等を行ないました。

また、前期は、外国人留学生支援委員会と合同で留学生懇談会を開催し、留学生からの要望や意見を聴く機会を設け、後期は具体的な編入学等にむけてのガイダンスを実施し情報提供を行ないました。留学生所属学科、キャリア支援委員会と連携しキャリア支援に結びつけています。

＜ボランティア活動支援室＞

国際的視野で考え行動する地域密着型ボランティアプロジェクト

（１）国際ボランティア養成・育成

・地域貢献活動参加学生の養成・育成と実践

ボランティア講座と連動して、習得した知識、得意技を活かせる機会の場を地域で生かせるようコーディネートに努め、学生を地域のニーズに応じて派遣しています。

・モンゴル民族舞踊団の育成と実践

クラブ活動として、余暇を活用してのトレーニング、チーム作りをしている。地域のコミュニティづくり、福祉活動にチームを派遣しています。

・タイ北部山岳少数民族村コミュニティ作り支援活動

子どもたちへの教材の提供をはじめ、支援のためのコーディネート、現地へ学生を派遣。支援活動を現地へ伝え、子どもたち、先生、村人に勇気と希望を与えています。現地で貴重な体験を積んだ学生を小学校や地域公民館の講座の講師に派遣し、体験したことを活かしています。

（２）文化と環境を生かす鈴鹿市稲生の里づくり

稲生地域づくり協議会と協働して、「文化」と環境を生かす実践活動の成果として、酒造りに焦点を当てて活動を展開しています。

4月下旬、酒米「右近錦」の田植えに始まり、稲刈り、清水醸造へ搬入、12月初旬の完成まで、地域コミュニティ行事のボランティア参加を通して地域活動に参画しています。完成後は、本学独自の酒ラベルを作成し、「高田短期大学・やわらか心」として、市場への提供準備中です。

＜施設設備等の整備事業＞

① 学生支援推進G P事業

取組期間 平成21年度～平成23年度
総事業費 25,000,000円

●ポータルサイト用ハード、PC等

納品会社 (株)システムテクノ
購入費用 2,100,085円
事業実施月 平成22年4月～9月

●GPA対応成績・履修システム開発等

納品会社 (株)システムテクノ
開発費用 6,491,620円
事業実施月 平成22年4月～平成23年3月

② スクールバス運行委託業務

委託会社 (有)ティー・ディー・エス
契約費用 8,323,000円



事業実施月 平成22年4月～平成23年3月

③ 大講義室椅子等取替・床張替工事

施工会社 (株)愛知
工事費用 2,696,400円
事業実施月 平成22年9月



④ 大学案内DVD作成

委託会社 オリエンタル印刷(株)
作成費用 2,184,000円
事業実施月 平成22年4月～6月



⑤ 図書館1F、2号館1F研究室空調取替

施工会社 エリイ設備
工事費用 1,312,500円
事業実施月 平成22年4月

⑥ 短大坂道側溝改修工事

施工会社 日本土建(株)
工事費用 2,100,000円
事業実施月 平成22年8月～9月



⑦ 1号館北側境界擁壁工事

施工会社 日本土建(株)
工事費用 1,974,000円
事業実施月 平成22年10月～11月

高田中学校・高田高等学校<教育研究活動の実績>

(1) キャリア教育推進事業

生徒が激しい社会の変化に対応していく能力、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力、社会人、職業人として自立していくことができるようにする教育のことであり、働くことへの関心、意欲の向上と、それを学ぼうとする向上心を発達させるための教育の一環です。生徒が進学後の進路選択の際に有益な情報を予備知識としてもてるような、出前授業を計画していきます。

昨年度より日本を代表する企業や、企業の技術力を解説していただくことにより、生徒に職業人としての意識を付けることに貢献しました。

本年度についても大学教授、著名人など日本人として誇れる方々の講演を受講することにより進学や職業観について理解を深めることができました。(キャリア教育・進路講演会 10回)

- 5月 駿河台学園
- 6月 文教大学
- 7月 リクルート社、三重大学、名城大学
- 8月 都立晴海総合高等学校
- 9月 職業人、13大学進学説明会
- 2月 英語教育
- 3月 名大社

今後についても、高校1年生から将来の職業観と結びつけたキャリア教育を推進していきます。

(2) 部活動の推進事業

クラブ活動は学校教育の一環としてより高い技能に挑戦し、体力の向上、健康の増進を図り、優れた人間形成を目標に取り組む活動です。新グラウンド完成により施設設備が充実したことを受け、生徒が自発的かつ自主的に練習に取り組み、県内外からも注目されるような活動を推進しています。活動は、主に放課後を利用し顧問の指導の下、高田高等学校、高田中学校として全国大会・東海大会に出場し高田学苑の名を三重県内外へ広めています。



(活動実績) 高等学校

- ◇運動部 全国大会・東海大会出場クラブ (個人出場含む) 新体操、卓球、なぎなた、水泳、馬術、陸上競技、剣道、ソフトテニス、空手
- ◇文化部 全国大会出場クラブ (個人出場含む) 俳句、将棋、文芸
- (活動実績) 中学校
- ◇運動部 東海大会出場 (個人出場含む) 陸上競技、水泳、剣道、馬術

(3) 危機管理教育の取り組み

積極的に防災訓練に参加することにより防災意識を常に持ち、発生時には冷静な判断力と速やかな行動力が発揮できるよう、生徒の防災意識を高める教育を推進し、自らの災害に対する実践、準備を充実させることを目的としています。

また、災害以外に於いても校内不審者等への対応をまとめた学校危機管理マニュアルに基づき行動します。

情報源として、「あんしんネット」「きずなネット」を利用し最新の情報に対応しています。

<避難訓練>

(目的) 地震発生時における生徒の安全確保及び、地震発生時の対策に関する検証確認

(要領) 想定状況 震度6

教室での図上訓練

避難の実働訓練 生徒全員が運動場への避難 (平成22年9月3日実施)

さらに最近漏洩問題が発生する機会が多い、パソコンにからむ個人情報の持ち出し等について今年度より取扱規則を作成し、教職員への意識徹底を図りました。

(4) 教職員の資質向上事業（初任者研修、学内研修、中部私学研修、就任10年研修など）

○ 新規採用教員研修の推進

文部科学省より新任教員研修の充実について様々な提言がされている中、本校においても新任教員の資質向上を目指し取り組みを推進しているところです。

年間15回の研修を通じて、事務的内容や指導教員からの長年培われたノウハウを習得することにより、教員としてあるべき姿を確立するための研修を行っています。

また、受講を終えた教職員からもこの研修は今後の職務において大変参考になると好評です。

さらに今後は、新任教員の授業に校長や教頭が訪問する機会を設け、更なるスキルアップに努めてまいりたいと考えています。

平成22年度 初任者研修 年間計画表

	研修テーマ	実施日時	担当者	研修場所	備考
1	教育に対する心構え	4月21日(水) 15:40~16:30	学校長	大会議室または視聴覚教室	
2	高田の歴史と建学の精神について	4月26日(月) 15:40~16:30	梅林		
3	学校法人の規定について	5月10日(月) 15:40~16:30	河北		
4	人権・同和教育	5月20日(木) 13:30~14:20	牛尾		
5		6月14日(月) 15:40~16:30			
6	教職の実務 (中・高教務関係と危機管理)	6月25日(金) 15:40~16:30	宮崎・因		
7		8月9日(月) 10:00~10:50	長谷川		
8	生徒指導と教育相談	8月9日(月) 11:00~11:50	安井		
9		9月6日(月) 15:40~16:30	井ノ口		
10	特別支援教育	11月8日(月) 15:40~16:30	梅林		
11		11月17日(水) 15:40~16:30	グイス		
12	進路指導	12月6日(月) 13:30~14:20	家木		
13	コンプライアンス (服務規程と教育法規)	1月17日(月) 15:40~16:30	長谷川		
14		2月14日(月) 15:40~16:30	宮崎		
15	学校自己評価	3月4日(木) 13:30~14:20	長谷川		

○ 教員研修の推進

教員の意識向上とスキルアップを目的として、様々な研修の推進を目指しています。

外部研修として中部私学研修に参加し、他学校との交流を積極的に行うことにより、自らの自己啓発につながるものと考えています。また、校内研修において「危機管理講習」、「プレゼンテーション講習」などを実施していきます。その他大学ごとの入試問題検討会にも参加し、問題傾向や入試情報の把握に努めています。

10年経験者研修参加者については、その研修内容について職員会議等において報告を行うなど確実に教員の意識向上につながっているものと思います。

今後も、積極的に講習会や研修会に参加することにより、新人からベテランまでその資質向上に役だったものと考えています。

(5) きめ細やかな学習指導の推進

自立した生徒の育成を目指し、新学習要領に基づいて私学の独自性を発揮した教育を推進していきます。また、悩みを抱える生徒に対し教育支援委員会、生徒指導部、各学年、カウンセラーと協力して生徒を支援して明るく元気な学校作りに取り組んでいます。

毎月1回の委員会において生徒の情報交換をおこない、個別に支援方法を検討しています。

生徒自身の自立回復に役立ち、保護者とも懇談することにより負担の軽減に役立ち、理解と信頼を得ている状況であります。

丁寧な個別指導を行うことにより学習意欲と実力向上に努めることができました。

(6) 命の大切さを考える教育の推進事業

本校の建学精神である「仏教に基づく宗教的情操教育」によって、生徒一人ひとりが命の大切さを学習することを目的とし、その実現と実践のため、週1回の仏教授業を通じて教えを学び、全学年が年間3回の作文を書くことにより自他共に慈しみのある命の活用、あり方を主体的に深めています。

また、毎月の本山参詣では静寂な雰囲気の中で自己を見つめて反省し、冷静に感情を抑制することなどに精進しています。また、法話を聞くことをとおして、聞くことの大切さ、その受容により共感する大切さを身につけることにつながります。

これらの体験活動を基盤として人権学習とも連携しあい、社会でのマナー、コミュニケーション能力を向上させ、自然との共生に関心を持って身近な日常生活の中で思いやりと慈しみのある生き方を涵養させることができました。



(7) 国際交流事業

(目的)

- ① 国際感覚豊かな人間育成のため、授業や諸行事に参加しながら異国の学生生活を体験し友好を深めること。
- ② 互いの生活習慣や文化を学び、今後の交流振興に貢献すること。
- ③ 受け入れ家庭が、生徒と共に学び、生活することにより異文化理解を深めていくこと。



<シンガポール交換留学生訪問>

訪問期間 平成22年8月3日～8月9日

参加者 10名(男1名・女9名)

引率教員 3名

新民中学校に訪問し異国の授業を体験しました。またホームステイにより外国文化を体感しました。

<シンガポール交換留学生受入>

受入期間 平成22年11月11日～11月18日

受入数 新民中学校 14名(男1名・女13名)

引率教員 2名

本校授業に参加(美術・茶道・伊勢型紙・体育・英語など)したり、日本文化の学習(京都・伊勢神宮の見学)などを習得して、それ以外は、ホストファミリーと過ごし異文化を体感してもらいました。

<オーストラリア交換留学生受入>

受入期間 平成22年9月11日～9月22日

受入数 パレード校 18名(男18名) 引率教員3名

セントモニカズ校 18名（男3名・女15名） 引率教員2名
本校授業に参加及びホームステイにより異文化を体験し、伊勢、京都などを訪問し日本文化を体感してもらいました。

<オーストラリア姉妹提携校訪問> 訪問期間 平成23年3月11日～25日

参加者 34名（男14名・女20名） 引率教員 5名

本場の英会話や異文化を体感する事により語学力向上や、国際社会に役立つ貴重な体験ができました。

(8) 自己点検・評価等推進事業

(趣旨)

「学校の教育目標や教育活動の内容・方法、教育成果、学校の管理運営などについて、よりいっそうの教育活動の充実を図る」趣旨で教育活動全般にわたる自己点検・評価を行い、継続的な改善更新、改革を図っています。

(平成22年度の目標) 3年計画で実施(21年度～23年度)

◇目指す学校像(教育理念)

生徒・保護者・社会の期待に応え、伝統を重んじ信頼される私学を目指す。

◇校訓「言行忠信 表裏相応」の精神のもと、人間性豊かな人材を育成する。

◇高邁な志と社会に貢献できる人材を育成する。

◇自分の夢の実現に向けて、自ら学び、自己を律し、行動できる人材を育成する。

<努力目標>

人間的豊かさを深め、個性の伸長をはかり、基本的生活習慣を確立させ、規律ある行動力を育成しています。また、学力の向上と充実錬磨に努め、環境を大切にし、世界に貢献できる人材を育成しています。

<重点努力目標>

人権・同和教育の推進、進路指導の徹底、基本的生活習慣を確立し、規律ある行動の育成、授業の充実と学力の向上・錬磨を行ない、環境・安全教育の推進、世界に貢献できる人材を育成しています。

(点検・評価の日程)

- | | | |
|---|-----------|--|
| 1 | 平成22年 4月 | 前年度学校自己評価への評価結果報告及び継続的取組の促進 |
| 2 | 平成22年12月 | 評価項目の確認と評価方法の決定
(今年度評価項目については、評価結果の継続的推移把握) |
| 3 | 平成23年3月初旬 | 評価実施 |
| 4 | 平成23年3月末 | 集計と分析 |
| 5 | 平成23年4月 | 職員への結果の公表 |
| 6 | 平成23年5月 | 評価結果の公表 |

(高校総評)

多くの項目で評価平均値も低下しているが、教育活動自体は、昨年と同様の活動を展開しており、活動に支障も来してはいない。それゆえに、評価が低下した理由は、教員一人ひとりの意識の面での向上がみられた、求める活動水準がおしあげられた、本校の教育活動に対して教員自身が、より厳しい視点を持つようになってきていること、と評価しています。

しかしそう捉える以上、教育活動の改善点を見だし、より良い教育活動の実現にいよいよ取り組まなければなりません。本校における問題点を捉えるべく意識的に学校自己評価を繰り返し

てきた以上、評価平均値の低下は必然的であり、いよいよ教員一人ひとりの活動が重くなると意識しています。

(中学総評)

全ての評価項目で昨年度の平均値を超えており、様々な取り組みに対して適切な評価が得られるものと考えられ、平均値の低い項目に関しては評価結果を受け、全教員が共通認識を持ち、目標実現に向けて取り組んでいかなければなりません。

(9) 数理コースの授業概要

昨年度より数理コースを新設しました(21年度21名、22年度33名入学)。文理コースに比して数学・物理の授業を1時間多く実施しております。生徒の多くは、国公立大理系学部進学希望です。

夏休みを利用して校外宿泊研修として理系大学との共同プログラムを実地することにより、意欲的に物事を吸収する生徒が増えてきております。今後も、理数系大学や科学技術関係機関と密接な連携を保ち、教育のレベルアップを図っていきたいと思います。

平成21年度、22年度共に本校は独立行政法人科学技術振興機構(JST)が主催する「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)」に採択されました。

「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SPP)」とは、文部科学省の「次代を担う人材への理数教育の拡充」施策の一環として、学校と大学・科学館・企業等の連携により、生徒の科学技術、理科・数学に関する興味・関心と知的探究心などを育成することを目的とする事業です。

【課外授業等の現況】

「1年生」(7月に事前学習・・・豊田工業大学・鈴鹿高専・NPO法人の協力)

① 数学集中講義

8月4日(水)～6日(金)の3日間

「数学の歴史」 講師 三重大学名誉教授 黒川都史子先生

② 本校理科教員による理科実験・実習 3日間

8月 9日(月) 化学実験 化学実験の基本操作

8月10日(火) 物理実験 加速度の測定

8月11日(水) 生物実験 原形質流動・原形質分離と細胞分離

③ 校外宿泊研修 8月18日(水)～20日(金)の2泊3日

8月18日(水) 核融合科学研究所(岐阜県土岐市)

8月19日(木) 奥矢作森林塾

8月20日(金) 豊田工業大学 バイオマスについての講義と電子顕微鏡設備見学

9月22日(水) 奥矢作森林塾(SPP講座事後学習)

10月 9日(土)・16日(土)・23日(土)

三重大学生物資源学部公開講座 「いきものいろいろ 生物多様性のすすめ」

12月18日(土) 合同公開成果発表会

「2年生」(7月に事前学習・・・三重大学大学院の協力)

① 数学特別講座

8月24日(火)～26日(木)の3日間

「ユークリッド原論・複素数とベクトル」

講師 三重大学名誉教授 黒川 都史子先生

② 本校理科教員による課外活動

- 8月 2日(月) 化学実験 金属の反応と金属イオンの定性分析
8月 3日(火) 生物実験 ユスリカの唾液腺染色体の観察とザリガニの解剖
8月 4日(水) 物理実験 力学的エネルギー保存則とキューブセンサーによる電気回路実験
8月10日(火) 鳥羽水族館生物実習 ウニの発生の観察・水族館見学

③ 本講座

- 7月28日(水) ラジオゾンデによる気象観測 三重大学生物資源学部
7月29日(木) 植物の光合成・蒸散速度の測定実験 三重大学生物資源学部
8月17日(火)～19日(木)の3日間
風力発電と太陽電池の実機実験実習 三重大学工学部
11月21日(日)
三重大学練習船「勢水丸」にて伊勢湾海洋調査実習
12月 4日(土) BIOグループ成果発表
12月18日(土) 合同公開成果発表会
12月24日(金) 京都大学基礎物理学研究所訪問「宇宙論」「核物理学」など
3月18日(金) 日本学術振興会サイエンスダイアログ 神戸大学大学院

(10) 教職員海外研修事業

1) 三重県私学総連合会私学教職員海外研究派遣事業

派遣教諭 辻井 明子
視察先 イギリス
視察期間 平成22年8月9日(月)～8月16日(月)

<視察・研究内容>

イギリス人のダイナミックな生活ぶりや環境問題への積極的な取り組みを肌身で感じたことを、若き生徒に伝えていくことを目的とした視察ができました。

2) 高田中・高等学校教職員海外派遣事業

派遣教諭 因 信也
視察先 ポーランド
視察期間 平成22年8月9日(月)～8月16日(月)

<視察・研究内容>

平和の大切さを考える目的で、第2次世界大戦での人類への差別及び負の遺産を現実に見ることにより、平和の尊さを教育の中に取り入れていきたいと考えます。

このような事実が、僅か65年前のこととしてあること自体信じられません。このような人間の愚かさを正すべく命の大切さや生きることの意味について根本的に考える良い機会となりました。

3) 高田中・高等学校教職員海外派遣事業

派遣教諭 千草 正道
視察先 イギリス
視察期間 平成22年7月31日(土)～8月7日(土)

＜視察・研究内容＞

英語の教科書には、イギリスの歴史・文化や自然などを背景とした題材が多く取り入れられています。それに関する場所や建造物を実際に自らの目で確認することにより、写真や文字では伝えられない部分を生徒に伝えていきたいと考えています。

（１１）人権教育研修の推進

定期的に人権教育委員会を開催し、教職員の人権意識向上に努めています。

本年も夏季休暇時を利用し教職員及び保護者を対象に「人権教育研修」を開催し、広く人権問題に関して取り組んできました。

（１２）生徒募集の推進

中学・高等学校共に塾主催の入試説明会に積極的に参加しています。また高校入試に関しては各中学校へ直接訪問し、入試情報を提供しています。また、本校主催で保護者対象入試説明会や塾対象説明会を行い、他には新聞広告などマスメディアを利用した広報活動にも力を入れています。

また、本年は広く高田中学校を知ってもらうために、小学校４年生を対象とした「学びのひろばIN高田」を開催し、更なる情報発信に努めています。

「本年度開催実績」

- ① ８月２８日（土） テーマ 親子で楽しむ算数マジック
（定員：４０名） プラネタリウム体験
- ② １１月１３日（土） テーマ たかだ算数オリンピック
（定員：２００名） 「部活動ってなに？」～中学校の部活動を体験しよう～
- ③ ２月 ６日（日） テーマ 親子で楽しむ英会話～IT機器を使ったら・・・?!～
（定員：４０名） 「初体験！おうまさんとお琴」～君ならどっち～

高等学校生徒募集については、地域拡大（北勢地区）を再開するも不景気などの社会情勢と相まって、壁を打破することは難しいが、学校見学会などのアンケートによると本校のイメージアップは確実に図られており、現１年生については専願入学者が１／３を越えていることも高田高等学校の信頼の証明となっています。

今後、少子化を迎えるにあたり、皆が危機感を持ち生徒募集を行う必要があります。

- 募集に係る若手教員の育成、説明係員の研修による共通理解。
- 専願推薦入学者への支援など
- 広報活動地域の拡大など

（１３）学校安全・保健計画の推進

学校安全管理の立場から交通ルールの遵守、自転車の安全点検、校内安全点検などを実施するとともに、生徒と教員が街頭登下校指導をするなどマナーアップや安全意識の高揚にも努めました。また、学校保健の立場から、校医検診や他の各種検査を通じ生徒個々の健康状態を把握し、常に健康管理に努めています。さらに、AED講習を実施し常日頃から使用に関し慣れていくよう指導しています。昨年度のような新たな感染症が発生した場合などの緊急対策や予防教育の推進についても保健だよりなどを有効的に発行し、積極的な取り組みに努めました。

月	学校行事	月の重点目標	保健管理	保健教育		
				保健計画	保健指導	生徒活動
4月	・中、高入学式 ・校外学習(中1～4, 高1)	・健康診断による健康状況の把握	・生徒机、椅子の整備 ・保健室の整備 ・医薬品・器具の点検・確認 ・三木スポーツ施設センター個人手続機 ・教室の湿度(1号館全教室計測) *教室の湿度(本館3, 4F教室器具増設)	・校医健診、身体計測(全) ・中1保健体育科講習 4/7 ・胸部X線検査(1・4) ・心電図検査(1・1・4) ・校医(全) ・家庭科 感染症衛生指導計画作成	・定期健診の事前指導 ・保健だより発行	・保健委員 身体計測補助 ・家庭科 衣服管理学習
5月	・1学期中間考査 ・宗田保潔会	・病気の早期発見、早期治療	・ホルムアルデヒド測定	・職員検診 ・校医二次検査 ・歯科検診(Ⅲ・6・1・4) ・学校環境データの実施計画作成	・定期健診の事後指導 ・保健だより発行	・保健委員 歯科検診補助 ・家庭科 衣服管理学習
6月	・父母の会総会 ・花祭り ・教育実習 ・学校環境デー	・梅雨期の健康 ・歯周病の予防 ・学校環境衛生の整備	・学校環境衛生全般の点検 ・飲料水の品質検査 ・プール施設の衛生点検 ・プールの水質検査	・歯科検診(中全・Ⅱ・5) ・歯科検診(Ⅲ・6・1・4) ・学校環境データの実施	・定期健診後の事後指導 ・食品衛生、食中毒予防指導 ・食品衛生指導計画 ・学校環境デーの実施指導	・保健委員 歯科検診補助 ・学校環境デー一活動 ・食品衛生に関する学習 ・衛生的な調理実習
7月	・1学期末考査 ・高クラスマッチ、中スポーツ大会 ・北館山校外宿泊学習(中1) ・立山校外宿泊学習(中2) ・奥穂校外宿泊学習(4等)	夏の間健康管理	・学校保健統計整理 ・教室の湿度検査	・校外宿泊学習前保健調査 ・休館中の生活習慣指導 ・暑さ対策、熱中症等の予防と手当て ・部活動(合宿等) 生徒の健康状況把握	・スポーツ大会に伴う保健指導 ・クラスマッチに伴う保健指導 ・夏季休暇中の生活習慣指導 ・夏季休暇中の増設活動	・休館中の日課実行 ・熱中症予防の学習
8月	・シンガポール交換留学(訪問) ・中学生対象学校見学会					
9月	・オーストラリア交換留学(受入) ・送迎会 ・文化祭	・災害時の安全活動 ・けがの予防	・救急医薬品の点検	・文化祭の衛生指導 ・文化祭のための検便(模擬店クラス)	・授業日の生活習慣指導 ・保健だより発行	
10月	・校外宿泊学習(中3, 5年, 高Ⅱ) ・2学期中間考査 ・校外学習 ・体育祭	・目の健康 ・新型コロナウイルス対策計画の立案	・校外宿泊学習の健康管理 ・校外学習の健康管理 ・体育祭に伴う健康安全管理	・校外宿泊学習前保健調査 ・校外宿泊学習前講習(3・Ⅱ・5希望者) ・新型コロナウイルスの指導計画作成	・校外学習、校外宿泊学習中の保健指導 ・保健だより発行 ・新型コロナウイルスの基礎知識指導	・校外宿泊学習時の体調管理学習 ・体育祭の救護活動 ・新型コロナウイルスの学習
11月	・シンガポール交換留学(受入) ・芸術鑑賞(高全)	・心身の健康 ・かぜの予防	・健康診断票作成	・AED講習計画(中2)	・保健だより発行 ・AED講習会(中2)	・AED講習受講(中2)
12月	・2学期末考査 ・中学合唱コンクール	冬の間健康管理	・感染症予防対策 ・健康診断票作成	・中2保健体育科講習 12/11 ・感染症予防予防指導計画 ・部活動生徒の健康状況把握	・大学受験に向けての健康生活指導 ・風邪、インフルエンザ予防指導 ・保健だより発行	・感染症(インフルエンザ等)予防の学習 ・手洗い、うがいの励行やマスクの使用
1月	・中学入試 ・報恩講					
2月	・高校入試	・健康な生活習慣	・学校保健統計まとめ	・感染症予防(インフルエンザ)	・保健だより発行	
3月	・高校卒業式 ・学年末考査 ・高クラスマッチ、中スポーツ大会 ・オーストラリア交換留学(訪問) ・終業式	・1年間の反省、まとめ	・保健室整備 薬品、器具、備品の点検 ・23年度の保健計画	・生活習慣病講習計画(中3)	・生活習慣病講習会(中3) ・スポーツ大会に伴う保健指導 ・クラスマッチに伴う保健指導 ・保健だより発行	・生活習慣病講習受講(中3)

＜高田中・高等学校施設整備実績＞

① 本館・2号館外装等改修工事

施工時期 6月1日～9月30日
 設計管理 株式会社中部都市建築設計
 施工業者 日本土建株式会社
 総事業費 83,265,000 円



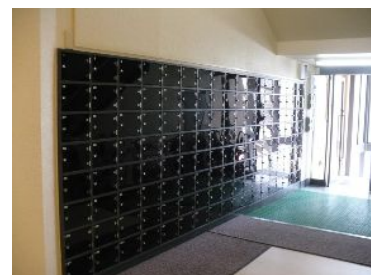
② 本館・1号館・2号館トイレ改修工事

施工時期 7月1日～9月30日
 設計管理 株式会社中部都市建築設計
 施工業者 日本土建株式会社
 総事業費 80,325,000 円



③ 職員用玄関下駄箱改修工事

施工時期 8月
 施工業者 日本土建株式会社
 総事業費 566,475 円



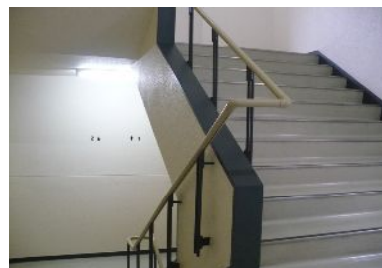
④ 本館階段手すり改修工事

施工時期 8月

施工業者 日本土建株式会社
総事業費 1,815,187 円

⑤ 玄関ホールパーティション設置(第三応接室)工事

施工時期 10月
施工業者 日本土建株式会社
総事業費 2,066,663 円



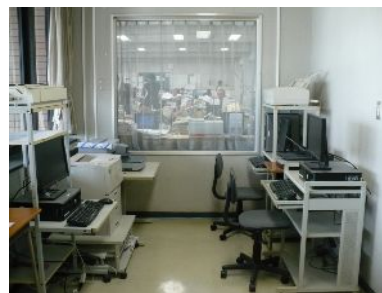
⑥ 懸垂幕取り付け工事

施工時期 10月
施工業者 日本土建株式会社
総事業費 3,201,712 円



⑦ 学事(成績入力)用PC23台購入

納入時期 7月
納入業者 株式会社システムテクノ
総事業費 2,922,150 円



4 財務の概要

(1) 資金収支計算書の概要

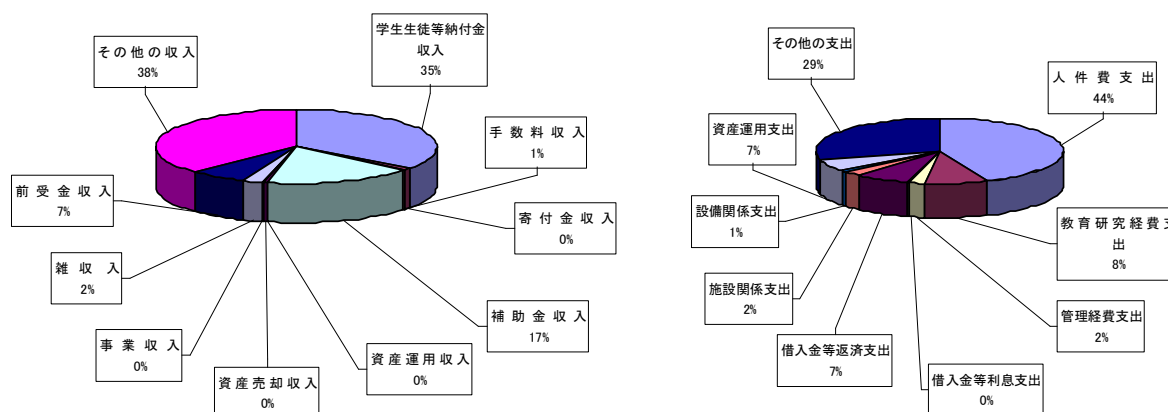
資金収支計算書は、会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。本学苑の資金収支決算総額は43億4,500万円となり前年度の決算額と比較し3億2,300万円の減額となりました。

平成22年度 資金収支計算書 総括

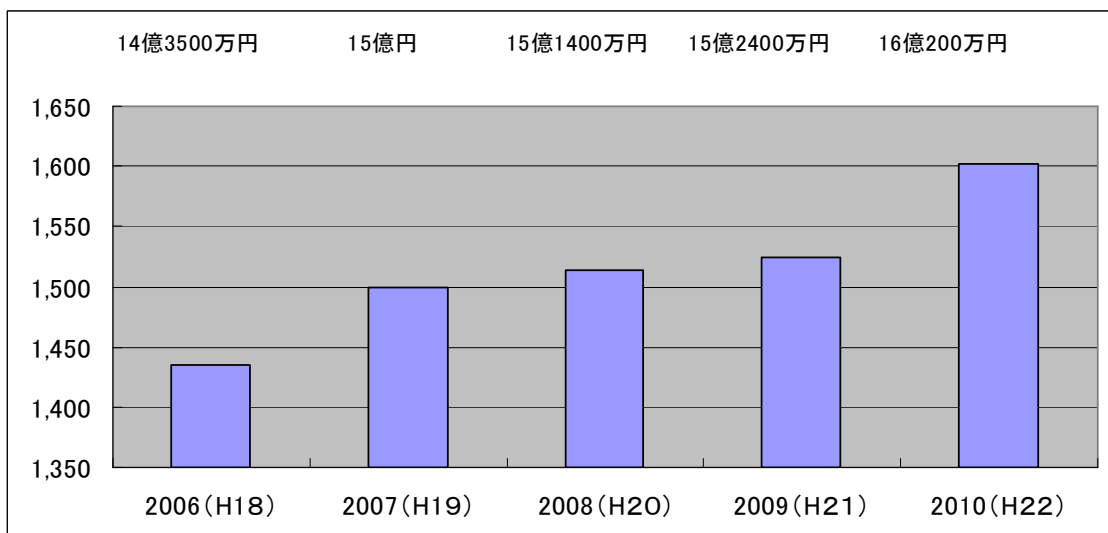
(単位:千円)

収入の部			支出の部		
科 目	決 算	前年比	科 目	決 算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,601,934	77,380	人 件 費 支 出	1,822,342	▼ 24,744
手 数 料 収 入	55,421	▼ 2,916	教 育 研 究 経 費 支 出	339,569	12,831
寄 付 金 収 入	8,098	▼ 1,281	管 理 経 費 支 出	84,960	▼ 6,173
補 助 金 収 入	778,136	5,233	借 入 金 等 利 息 支 出	4,247	▼ 1,686
資 産 運 用 収 入	14,991	▼ 4,205	借 入 金 等 返 済 支 出	300,000	0
資 産 売 却 収 入	2,055	2,055	施 設 関 係 支 出	102,570	▼ 526,737
事 業 収 入	7,980	577	設 備 関 係 支 出	22,853	▼ 18,961
雑 収 入	103,235	▼ 26,873	資 産 運 用 支 出	274,570	▼ 76,665
前 受 金 収 入	299,793	▼ 7,890	そ の 他 の 支 出	1,208,234	249,378
そ の 他 の 収 入	1,706,088	90,256	資 金 支 出 調 整 勘 定	△ 37,473	2,030
資 金 収 入 調 整 勘 定	△ 388,141	29,578			
当年度収入合計	4,189,590	161,914	当年度支出合計	4,121,872	▼ 390,727
前年度繰越支払資金	156,074	▼ 484,923	次年度繰越支払資金	223,792	67,718
収入の部合計	4,345,664	▼ 323,009	支出の部合計	4,345,664	▼ 323,009

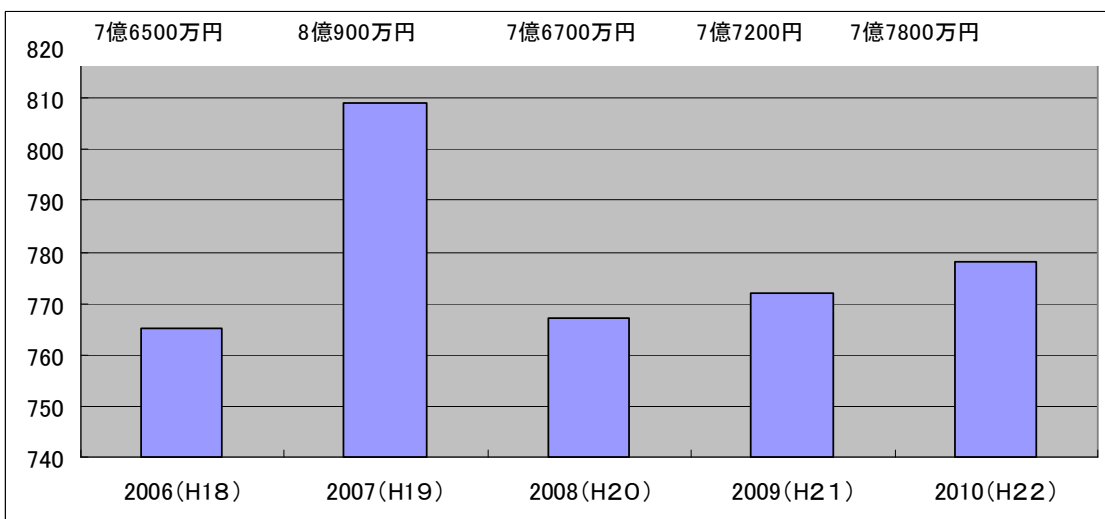
(注)△は計算書式上のマイナス表示、▼は比較上のマイナス表示(以下同じ)。
前年比は平成21年度決算との比較です。



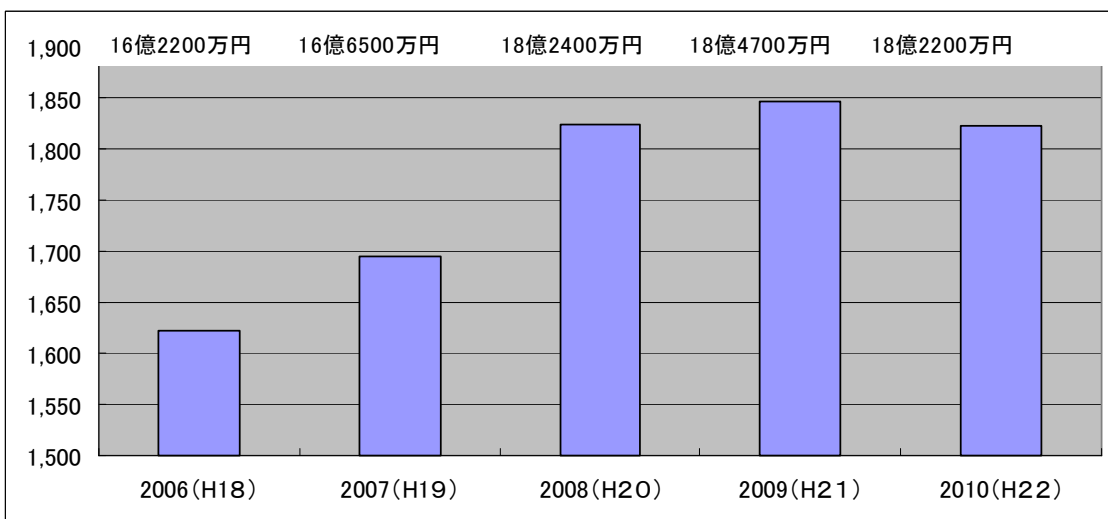
● 学生生徒等納付金収入推移表(2006～2010決算)



● 補助金収入推移表(2006～2010決算)



● 人件費支出推移表(2006～2010決算)



平成22年度 補助金一覧表

(単位:千円)

補助金名	当年度	前年度	差異
	①	②	① - ②
短期大学補助金合計	130,877	115,127	15,750
国庫補助金計	128,990	111,935	17,055
私立大学等経常費補助金	116,717	97,698	19,019
大学改革等推進等補助金	11,233	11,000	233
政府開発援助外国人留学生修学援助補助金	0	825	△ 825
子供ゆめ基金助成金	0	943	△ 943
科学研究費補助金	1,040	1,469	△ 429
地方公共団体補助金計	1,887	3,192	△ 1,305
結核健康診断予防接種費補助金	84	78	6
キャリア形成訪問指導事業費補助金	867	0	867
潜在的有資格者等養成支援事業補助金	936	761	175
進路選択学生等支援事業補助金	0	2,353	△ 2,353
中・高補助金合計	647,259	657,776	△ 10,517
高等学校補助金計	491,260	502,236	△ 10,976
国庫補助金計	7,037	0	7,037
私立学校施設整備費補助金	7,037	0	7,037
地方公共団体補助金計	481,153	498,932	△ 17,779
私立高等学校等振興補助金	473,362	475,541	△ 2,179
授業料軽減補助金(授業料減免補助金)	4,416	20,767	△ 16,351
入学一時金給付事業補助金	765		765
人権教育推進事業費補助金	1,410	1,379	31
結核健康診断予防接種費補助金	218	191	27
外国人語学指導助手補助金	300	300	0
教育改革推進事業補助金	600	672	△ 72
人権を考える児童・生徒の集い開催事業	82	82	0
市町村補助金計	3,070	3,304	△ 234
私立高等学校振興補助金 津市	2,563	2,513	50
私立高等学校振興補助金 松阪市		215	△ 215
私立高等学校振興補助金 鈴鹿市	359	418	△ 59
津市国際交流事業補助金	100	100	0
スポーツ奨励補助金	48	58	△ 10
中学校補助金計	155,999	155,540	459
国庫補助金計	786	0	786
私立学校施設整備費補助金	786	0	786
地方公共団体補助金	155,213	155,540	△ 327
私立高等学校等振興補助金	155,131	155,158	△ 27
外国人語学指導助手補助金	0	300	△ 300
人権を考える児童・生徒の集い開催事業	82	82	0
短大、中・高補助金 総計	778,136	772,903	5,233

(2) 消費収支計算書の概要

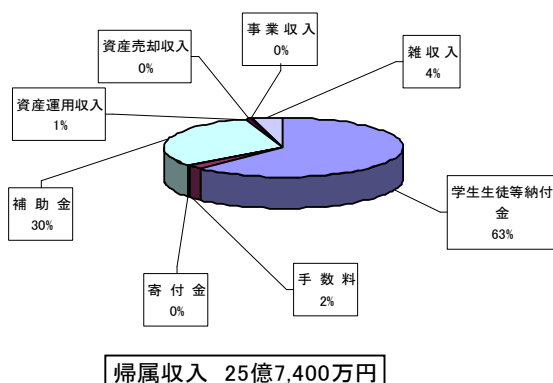
消費収支計算書は、当該会計年度の帰属収入、基本金組入額、消費収入及び消費支出の内容並びに消費収支の均衡状態を示すものです。

平成22年度消費収支計算書総括

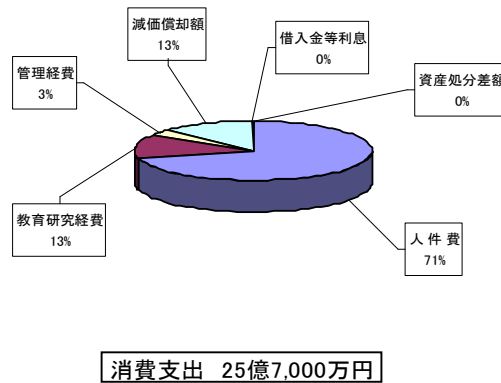
(単位:千円)

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金	1,601,934	77,381	人件費	1,813,757	▼14,159
手数料	55,421	▼2,916	教育研究経費	341,558	14,689
寄付金	8,424	▼4,125	管理経費	86,044	▼5,920
補助金	778,136	5,233	減価償却額	324,083	73,859
資産運用収入	14,991	▼4,205	借入金等利息	4,247	▼2,508
資産売却収入	2,055	2,055	資産処分差額	320	▼16,108
事業収入	7,980	577			
雑収入	104,995	▼25,113			
帰属収入合計	2,573,936	48,886			
基本金組入額	△412,486	▼39,289			
消費収入の部合計	2,161,450	9,597	消費支出の部合計	2,570,009	49,853
			当年度消費支出超過額	△408,560	▼40,258
			前年度繰越消費支出超過額	△2,815,949	▼368,303
			翌年度繰越消費支出超過額	△3,224,509	▼408,561

平成22年度帰属収入構成比



平成22年度消費支出構成比(対帰属収入比)



○帰属収入

帰属収入とは、学校法人の負債とならない収入で、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産運用収入、雑収入等が含まれます。

○基本金組入額

基本金組入額とは、学校法人の永続的維持に必要な資産を継続的に保持するために、維持すべきものとして帰属収入のうちから組入れた金額です。

基本金には、第1号基本金から第4号基本金まで、4種類の基本金があります。

第1号基本金は、施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、平成22年度の組入額は約4億1,250万円となりました。

主な内訳は、中・高本館等トイレ設備工事による建物の取得によるものです。

第2号基本金は、施設設備を取得するために、事前に組入れる金額で、平成22年度はありませんでした。

第3号基本金は、教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金、奨学基金等の設定であり、本学苑は組入れを行っていません。

第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金の額の設定であり、平成22年度も組入れる必要はありませんでした。

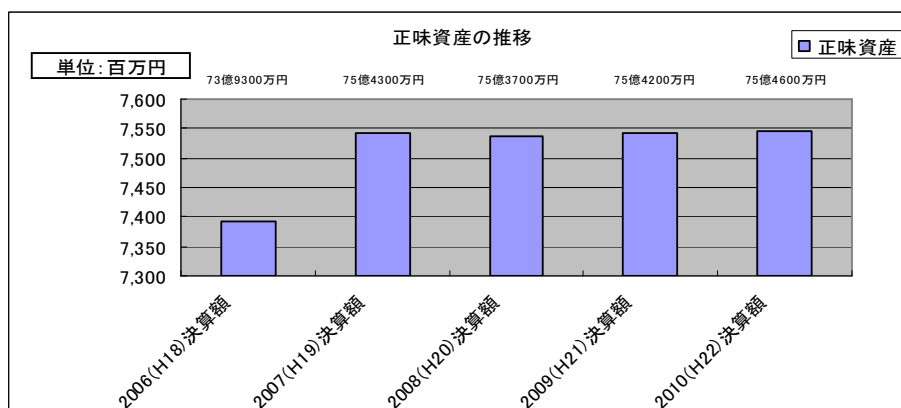
(3) 貸借対照表の概要

貸借対照表は、平成23年3月31日現在の財政状態を示しています。

平成22年度 貸借対照表（総括）

(単位:千円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	8,292,962	8,640,952	△ 347,990
有形固定資産	7,159,948	7,358,741	△ 198,793
土地	861,621	860,411	1,210
建物	5,056,914	5,162,137	△ 105,223
構築物	843,917	912,795	△ 68,878
教育研究用機器備品	148,994	175,736	△ 26,742
その他の機器備品	9,187	7,975	1,212
図書	205,775	201,978	3,797
車 輛	3,620	7,790	△ 4,170
学 苑 林	29,919	29,919	0
建設仮勘定	0	0	0
その他の固定資産	1,133,014	1,282,211	△ 149,197
借地権	2,258	2,258	0
電話加入権	1,286	1,286	0
施設利用権	1,063	1,144	△ 81
有価証券	3,838	3,838	0
差し入れ保証金	350	350	0
退職給与引当特定資産	312,490	312,490	0
施設設備拡充特定資産	584,570	673,193	△ 88,623
長期火災保険特定資産	220,193	278,794	△ 58,601
長期前払金	6,966	8,858	△ 1,892
流動資産	363,578	327,354	36,224
現金預金	223,793	156,074	67,719
未収入金	80,458	118,110	△ 37,652
修学旅行費預り資産	54,544	49,218	5,326
卒業諸費預り資産	3,384	3,372	12
前払金	333	580	△ 247
立替金	1,067	0	1,067
資産の部合計	8,656,540	8,968,306	△ 311,766
固定負債	291,728	702,072	△ 410,344
長期借入金	0	400,000	△ 400,000
退職給与引当金	291,728	302,072	△ 10,344
流動負債	819,069	724,417	94,652
短期借入金	400,000	300,000	100,000
未払金	36,893	39,504	△ 2,611
前受金	299,793	307,683	△ 7,890
預り金	24,455	24,639	△ 184
修学旅行費預り金	54,544	49,219	5,325
卒業諸費預り金	3,384	3,372	12
負債の部合計	1,110,797	1,426,489	△ 315,692
第1号 基本金	10,620,252	10,207,766	412,486
第2号 基本金	0	0	0
第4号 基本金	150,000	150,000	0
基本金の部合計	10,770,252	10,357,766	412,486
翌年度繰越消費支出超過額	△ 3,224,509	△ 2,815,948	△ 408,561
消費収支差額の部合計	△ 3,224,509	△ 2,815,948	△ 408,561
負債の部、基本金の部、及び消費収支差額	8,656,540	8,968,306	△ 311,766



注記 1. 重要な会計方針

①引当金の計上基準

○徴収不能引当金・・・・・・・・・・・・・・・・未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

○退職給与引当金

(短期大学) 期末要支給額 109,988,652 円の100%を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累積額との繰入れ調整額を加減した金額を計上している。

(中学校及び高等学校) 期末要支給額 1,181,511,759 円から三重県私立学校教職員退職基金財団より交付金相当額を控除した金額の100%を計上している。

②その他重要な会計方針

○有価証券の評価基準及び評価方法

* 移動平均法に基づく原価法である。

2. 重要な会計方針の変更等

該当なし

3. 減価償却額の累計額の合計額

3,720,686,543円

4. 徴収不能引当金の合計額

0円

5. 担保に供されている資産の種類及び額

0円

6. 翌会計年度以降の会計年度において基本金へ組入れを行うこととなる金額

235,069,500円

7. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

①有価証券の時価情報

(単位：円)

種類	勘定科目	当年度(平成23年3月31日)			
		貸借対照表計上額	時価	差額	
時価が貸借対照表計上額を超えるもの (うち満期保有目的の債券)	有価証券	3,838,498	16,735,082	12,896,584	
		(0)	(0)	(0)	
	退職給与引当特定資産	0	0	0	
		(0)	(0)	(0)	
	施設設備拡充特定資産	150,000,000	151,810,000	1,810,000	
		(0)	(0)	(0)	
小計 (うち満期保有目的の債券)		153,838,498	168,545,082	14,706,584	
時価が貸借対照表計上額を超えないもの (うち満期保有目的の債券)	施設設備拡充特定資産	20,000,000	19,502,000	△498,000	
		(0)	(0)	(0)	
	退職給与引当特定資産	100,000,000	74,509,400	△25,490,600	
		(100,000,000)	(74,509,400)	(△25,490,600)	
	小計 (うち満期保有目的の債券)		120,000,000	94,011,400	△25,988,600
			(100,000,000)	(74,509,400)	(△25,490,600)
合計 (うち満期保有目的の債券)		273,838,498	262,556,482	△11,282,016	
		(100,000,000)	(74,509,400)	(△25,490,600)	

②関連当事者との取引

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

(単位：円)

属性	役員、法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員 の兼任等	事業上 の関係				
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	有限会社 ティー・ディー・エス(注1)	三重県 津市	3,000,000	運転手 派遣業	—	—	スクールバス 運転委託契約 の締結	業務委託 費の支払 (注2)	10,307,625	未払金	3,911,500

(注1) 理事倉田謙文氏の近親者が議決権の100%を直接保有している。

(注2) スクールバス運転業務委託費については、実勢価格を勘案して価格を決定している。

(4) 財務比率推移表

(単位:%)

分類	区 分		20年度	21年度	22年度	評	21年度		分 類		
	比 率	算式(×100)	(短大) [中高]	(短大) [中高]	(短大) [中高]		全国平均				
貸借対照表関係比率	自己資金構成比率	(基本金+消費収支差額)	84.1	△ 27.8	87.2	△	87.5		自己資金は充実されているか		
		総 資 金									
	消費収支差額構成比率	消費収支差額	△ 31.4	△ 37.2	△ 37.2	△	△ 11.1				
		総 資 金									
	基本金比率	基 本 金	101.8	8.0	99.2	△	97.0				
		基本金要組入額									
	固定比率	固 定 資 産	114.6	△ 344.8	109.9	▼	96.8			長期資金で固定資産は賸われているか	
		自 己 資 金									
	固定長期適合率	固 定 資 産	110.2	△ 394.2	105.8	▼	90.0				
		(自己資金+固定負債)									
	固定資産構成比率	固 定 資 産	96.4	95.8	95.8	▼	84.7				資産構成はどうなっているか
		総 資 産									
流動資産構成比率	流 動 資 産	3.6	4.2	4.2	△	15.3					
	総 資 産										
減価償却比率	減価償却累計額	34.1	34.1	35.2	~	47.2					
	減価償却資産取得価額										
流動比率	流 動 資 産	45.2	50.2	35.2	△	260.4		負債に備える資産が蓄積されているか			
	流 動 負 債										
前受金保有率	現 金 預 金	50.7	50.7	74.6	△	413.2					
	前 受 金										
退職給与引当預金率	退職給与引当特定預金	80.5	103.5	107.1	△	55.1					
	退職給与引当金										
固定負債構成比率	固 定 負 債	3.4	3.5	3.4	▼	6.6			負債の割合はどうか		
	総 資 産										
流動負債構成比率	流 動 負 債	8.1	8.4	9.5	▼	5.9					
	総 資 産										
総負債比率	(固定負債+流動負債)	15.9	12.8	12.8	▼	12.5					
	総 資 産										
負債比率	総 負 債	18.9	△ 46.2	14.7	▼	14.3					
	自 己 資 金										
消費収支計算書関係比率	消費支出比率	消費支出	100.2	99.8	99.8	▼	短大	中・高		経営状況はどうか	
		帰属収入	[105.0] [97.6]	[105.3] [96.5]	(97.6) [99.7]						
	学生生徒等納付金比率	学生生徒納付金	60.0	60.4	62.2	~	61.9	52.9			収入構成はどうなっているか
		帰属収入	(75.1) [56.6]	(72.4) [57.3]	(70.3) [59.8]						
	補助金比率	補 助 金	30.4	30.6	30.2	△	23.7	35.9			
		帰属収入	(19.0) [34.2]	(19.6) [34.3]	(19.3) [34.5]						
	人件費比率	人 件 費	76.0	72.4	70.5	▼	61.7	67.6	支出構成は適切であるか		
		帰属収入	(72.3) [77.6]	(71.4) [72.7]	(65.2) [73.0]						
	教育研究費比率	教育研究経費	19.5	22.2	25.0	△	25.2	25.4			
		帰属収入	(26.8) [17.7]	(27.7) [20.8]	(27.5) [24.4]						
	管理経費比率	管 理 経 費	4.3	4.3	4.2	▼	9.7	5.1			
		帰属収入	(5.9) [2.0]	(5.9) [2.3]	(5.0) [2.3]						
借入金等利息比率	借入金等利息	(0.3)	(0.3)	(0.2)	▼	0.6	0.6				
	帰属収入	(0.0) [0.0]	(0.0) [0.0]	(0.0) [0.0]							
基本金組入率	基本金組入額	24.3	14.9	16.0	△	11.8	9.8				
	帰属収入										
人件費依存率	人 件 費	126.5	119.9	113.2	▼	99.7	127.8	収入と支出のバランスはとれているか			
	学生生徒納付金	(96.3) [137.2]	(98.5) [126.9]	(92.6) [121.9]							
消費収支比率	消費支出	132.4	117.3	118.9	▼	112.8	110.1				
	消費収入	(105.8) [142.3]	(105.4) [119.4]	(98.8) [127.0]							

(5) 財 産 目 録

(単位:千円)

一、資産総額	8,656,540
内 1.基本財産	7,130,028
2.運用財産	1,526,512
二、負債総額	1,110,797
三、正味財産	7,545,743


項 目	数 量	金 額
(一) 資産		8,656,540
1. 基本財産		7,130,028
(ア) 土地	91,201.77 m ²	861,621
(イ) 建物	39,650.03 m ²	5,056,914
(ウ) 構築物	175 点	843,917
(エ) 図書	89,423 冊	205,775
(オ) 教育研究用機器備品	17,858 点	148,994
(カ) その他機器備品	148 点	9,187
(キ) 車 輛	8 台	3,620
2. 運用財産		1,526,512
(ア) 現金及び預金		223,793
(イ) 修学旅行費預り資産		54,544
(ウ) 卒業諸費預り資産		3,384
(エ) 未 収 入 金		80,458
(オ) 借 地 権	1 点	2,258
(カ) 電 話 加 入 権	15 基	1,286
(キ) 施 設 利 用 権	3 点	1,063
(ク) 差 し 入 れ 保 証 金		350
(ケ) 有 価 証 券	48,217.00 株	3,838
(コ) 土 地	61,913.00 m ²	29,919
(サ) 退職給与引当特定資産		312,490
(シ) 長期火災保険特定資産		220,193
(ス) 施設設備拡充特定資産		584,570
(セ) 長 期 前 払 金		6,966
(ソ) 前 払 金		333
(タ) 立 替 金		1,067
(二) 負債		1,110,797
1. 固定負債		291,728
(ア) 長期借入金		0
(1) ㈱百五銀行一身田支店借入金		0
(イ) 退職給与引当金		291,728
2. 流動負債		819,069
(ア) 短期借入金		400,000
(1) ㈱百五銀行一身田支店借入金		400,000
(イ) 未 払 金		36,893
(ウ) 前 受 金		299,793
(エ) 預 り 金		82,383
(1) 職員源泉等預り金		24,455
(1) 修学旅行費預り金		54,544
(1) 卒業諸費預り金		3,384

監 査 報 告 書

平成23年5月27日

学校法人 高田学苑
理 事 会 御中
評 議 員 会 御中

学 校 法 人 高 田 学 苑

監 事 下津知文 

監 事 伊藤 進 

私たちは、監事として学校法人高田学苑の、私立学校法第37条第3項に基づいて同学苑の平成22年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（貸借対照表、資金収支計算書及び消費収支計算書）を含め、学校法人の業務及び財産に関し監査を行いました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務及び財産に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以 上